



*JCI Tokyo*  
*75th Memorial Book*



*Design Our Tokyo*  
未来のための継承





高級仏壇  
サンゼン  
**三善堂**

心はかたらを求め  
かたらは心をすめる

設立75周年おめでとうございます。

お仏壇・お位牌のご用命は三善堂まで  
2021年度卒業 諸田徳太郎

サンゼン  
**三善堂**

〒0120-3010-46  
東京都台東区西浅草1丁目1-18  
https://www.3010.co.jp/ ネットショップ https://www.3010shop.com/



【テレビアニメ】監督作品  
ニャンちゅうズ  
あおおに〜じ・あにめえしよん〜  
リルリルフェアリアル 第3期

【テレビアニメ】参加作品 (一部)  
キボウノチカラ  
〜オトナブリキョウ23〜  
伊藤潤三「マニアック」  
わしも -wasimo-  
この素晴らしい世界に祝福を!

【業務外活動】  
熊本県菊池郡菊陽町 PR大使  
東京中野文学賞 実行委員長  
中野クリエイティブ祭  
〜健康・医療とメディア芸術〜 主催  
映像上映ライブ FRENZ 主催・司会  
日本うんご学会 うんごレプロデュース

株式会社 Chisey  
- Creative Contents Produce -  
Address : 〒164-0001  
東京都中野区中野5-68-8  
Mobile Phone : 090-4355-5018  
Web : chisey.jp Mail : jc@chisey.jp



Design, Manufacture And Sale of Sign Boards, Outdoor Advertisment

活気ある街創りをサポートします

株式会社GXコーポレーション

〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木4-44-15 東包ビル 2F  
Tel. 03-5654-7031 / Fax. 03-5654-7032

常に勝利のために



Japan Connection  
株式会社ジャパンコネクション

〒100-0014 東京都千代田区永田町2丁目9-6 十全ビル新館004号 <http://japan-connection.info>

QUALIA

ICTにおける未来共創の実現

株式会社クオリア・グローバル・エージェンシー

〒101-0052  
東京都千代田区神田小川町 1-7 小川町メセナビル 10F  
TEL:03-3526-2866 FAX:03-3526-2867



株式会社コバヤシビル管理

〒130-0011  
東京都墨田区石原4丁目27番2号  
TEL. 03-3624-1858



株式会社 池田健三郎事務所

[www.kenzaburo.com](http://www.kenzaburo.com)

5つのCで未来を創造する  
異なる業種のConnect(連結)で  
新しい領域をCombining(組み合わせ)し  
Comfortable(快適)なサービスを全く新しく  
Creation(創造)する  
その事業にChallenge(挑戦)する



株式会社シーファイブ

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-21-7 プルミエールビル4階  
TEL:03-6806-8631 FAX:03-6806-8632

お客様に最適な商品をご提供させていただくために  
私たちが全力でサポートいたします



株式会社 そうあい保険事務所

〒110-0015 東京都台東区東上野5-1-8 上野富士ビル5階  
TEL:03-3845-6761 FAX:03-3845-6762



arj  
-Over Quality-

有限会社アレックスリードジャパン

〒158-0087 東京都世田谷区玉堤1-20-7 arj世田谷1F  
TEL:03-3704-7177 FAX:03-3704-7733

社員自ら行動し、新しい企業価値を創造する。



OAC Holdings  
Oneself Acts and Creates

株式会社オーエーシーホールディングス

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-21-7 プルミエールビル4階  
TEL:03-6806-5041 FAX:03-6806-5042

都市を彩る、優れた技術力



タマル美建興業株式会社

〒103-0001  
東京都中央区日本橋小伝馬町13-4 共同ビル8階  
TEL:03-6661-6400 FAX:03-6661-6401

不動産の問題解決 不動産で人助け



TIGA

ティガリアルエステート 株式会社

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町19-5 山手マンション606  
TEL 03-6427-8885

## 設立趣意書

1949年9月3日

新日本の再建は我々青年の仕事である。更めて述べる迄もなく今日の日本の実情は極めて苦難に満ちている。この苦難を打開してゆくため採るべき途は先ず国内経済の充実であり、国際経済との密接なる提携である。

その任務の大半を負っている我々青年はあらゆる機会をとらえて互に団結し自らの修養に努めなければならぬと信ずる。既に欧米の各地においては青年商工会議所が設立せられ、一九四六年にはこれらの世界的連絡機関としての国際青年商工会議所さえ設置せられておる。われわれはこれ等の国際機関との連繋は素より、青年の持つ熱と力を以って産業経済の実勢を究め、常に認識を新たにして、その責務の達成を期したい。

ここに政治経済の中心地、東京に在る我々青年はその使命の極めて重大なるを思い、同志相寄り東京青年商工会議所の設立を企図した次第である。



1949年9月3日 東京青年商工会議所創立総会

## The Creed of Junior Chamber International

We Believe;

That faith in God gives meaning and purpose to human life;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise;

That government should be of laws rather than of men;

That earth's great treasure lies in human personality;

And That service to humanity is the best work of life

我々はかく信じる

真理は人生に意義と目的を与え

人類の同胞愛は国家による統治を超越し

公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ

政府には人治ではなく法治が必要であり

人間の個性はこの世の至宝であり

人類への奉仕が人生最大の使命である

## JCI Mission

To provide leadership development opportunities that empower young people to create positive change.

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する

## JCI Vision

To be the foremost global network of young leaders.

青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを先導する組織となる

## JC宣言

日本の青年会議所は 希望をもたらす変革の起点として  
輝く個性が調和する未来を描き  
社会の課題を解決することで 持続可能な地域を創ることを誓う

## 綱領

われわれJAYCEEは 社会的・国家的・国際的な責任を自覚し  
志を同じうする者、相集い、力を合わせ  
青年としての英知と勇気と情熱を持って 明るい豊かな社会を築き上げよう

## 関東地区協議会宣言

わたしたちは日本の礎として  
あらゆる未来をみつめ  
多様性溢れる仲間と共鳴し  
新たな価値の創造により  
新時代の旗手となることを誓う

## 東京ブロック協議会行動宣言

わたしたちは  
輝く未来を大胆に描き  
ALL TOKYO で  
日本を変えることを誓う



公益社団法人東京青年会議所

# 創立75周年記念誌

## CONTENT

設立趣意書	
JCIクリード・ミッション・ビジョン	01
JC宣言文・綱領・関東地区宣言・東京ブロック行動宣言	02
目次	03
ご挨拶・祝辞	04
公益社団法人東京青年会議所 第75代理事長 高木 隆太 内閣総理大臣 岸田 文雄 様 東京都知事 小池百合子 様 特別区長会 会長 吉住 健一 様 東京商工会議所 会頭 小林 健 様 公益社団法人日本青年会議所 第73代会頭 小西 毅 様 JCI (国際青年会議所) 2024年度会頭 カビーン・クマール・クマラベル 様 東京JCシニアクラブ 世話人代表 安藤 公一 様	
東京青年会議所の歴史	09
理事長総覧 年表 東京青年会議所の成り立ちと代表的な運動	
2020年度コロナ禍における運動について	17
中長期ビジョンに紐づいた6政策	20
23地区委員会50周年	27
公益社団法人日本青年会議所 2023年度 第72回全国大会東京大会	51
【対談】全国大会東京大会 全国大会東京大会レポート	
未来のための継承	59
【対談】現役歴代理事長 NEXT5、80周年に向けて みんなで考える未来の東京青年会議所～東京JCメンバーの声で紡ぐ未来のビジョン～	
編集後記	



## ご挨拶・祝辞

## ご挨拶



公益社団法人東京青年会議所

第75代理事長

## 高木 隆太

公益社団法人東京青年会議所は、2024年9月3日、創立75周年を迎えることができました。創始より歴史を紡いでこられました先輩諸兄姉と、本会の運動にご支援を賜りました全ての皆様に心より御礼を申し上げます。

東京青年会議所は、1949年9月3日、東京青年商工会議所として48人の志を同じくする青年たちが集い設立されました。設立趣意書に刻まれた「新日本の再建は我々青年の仕事である。」という志を胸に、以来、東京青年会議所は、「明るい豊かな社会の実現」を理念に掲げ、変わりゆく社会課題に相對し、住み暮らす大切な街や人々のため、そして家族と会社のために挑戦し行動をしてきました。75年の長い歴史を紡ぎ、今日を迎えられたことは、いつの時代も、この創始の志を胸に、未来に強い想いを抱き、歩みを続けてきた先代がいたからです。先輩諸兄姉が築き上げてきた信頼と実績があるからこそ、今日の東京青

年会議所があることに敬意を表し、心より感謝を申し上げます。

いま、世界が変化するスピードは速く、我々を取り巻く環境は日々変化し続け、我々の価値観も変容をしています。将来の変化を予測することが困難な時代だからこそ、我々青年は未来を担う社会の構成員として大きな責任を持ち、未来を構想しその実現に向けて行動しなければなりません。

本年度の東京青年会議所は「Design Our Tokyo～未来のための継承～」をスローガンといたしました。周年という特別な年だからこそ、先代の想いや志を継承し、更なる高みを目指す節目としなければなりません。首都東京の未来を先駆けてデザインし、新たな価値を創るためには、市民と共に運動を「共創」することこそが重要だと考えます。共創することで多くの共感が生まれ、その共感によって市民から必要とされる組織になり、将来の責任世代である我々が市民の先頭に立ち、共創の和を広げ、過去から未来へ続く東京青年会議所の歩みをさらに飛躍させ、80周年に向けた布石としていきます。設立趣意書の志を胸に、市民と共に議論を重ね、より良い首都東京の未来を創り上げてまいります。

75周年の節目にあたり、我々は、改めて設立趣意書の原点に立ち返り、そして歴史を振り返り、先代の想いと志を次世代に継承しこれまでの絶え間なき努力とその成果を次世代に繋いでまいります。

これからも青年は青年らしく挑戦と行動を積み重ね、創始の青年会議所としての誇りと責任を胸に、「明るい豊かな社会の実現」に向けて運動を展開してまいります。これからも変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

# ご祝辞



## 内閣総理大臣 岸田 文雄様

公益社団法人東京青年会議所が創立75周年を迎えられ、記念誌が発行されますこと、心からお慶び申し上げます。

戦後間もない時期に、「新日本の再建は青年の仕事である」という崇高な志のもとに集まり、以来75年にわたり、地域との協働や社会の発展のために活動を続けてこられた皆様方のご努力に、深い敬意を表させていただきます。

日本は今、歴史の転換点とも言われる状況を迎えています。外にあっては、ロシアによるウクライナ侵略、世界的なエネルギー危機、中東情勢の深刻化。内にあっては、エネルギー・食料をはじめとする物価高騰、能登半島地震への対応、そして経済では30年に及ぶデフレマインドの後で確かな変化の兆しが表れつつあります。

しかし振り返れば、明治維新、戦後復興、高度成長。日本は、国の内外で起こった大きな「変化を力」に変え、歴史に残る大きな社会変革を実現してきました。大きな変化の時代に、私たちは変化に尻込みするのではなく、「変化を力にする」ことの攻めの姿勢で臨んでいくことが大切です。今まさに新たな変化の時代を迎え、東京青年会議所の皆様、これまでの長い社会貢献活動を更に発展させ、カーボンニュートラル、イノベーション、子育てなどの福祉社会の実現など、様々な課題について議論し、意欲的に活動いただいていることを、大変心強く感じます。

皆様方の若い力が、挑戦が、日本社会の活力となり、今再びの「新日本の再建」の原動力となることを期待してやみません。未来に希望が持てる社会を皆様とともに、実現していきたいと思えます。

改めて、東京青年会議所の75周年をお慶び申し上げますとともに、貴会議所の皆様の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 東京都知事 小池 百合子様

公益社団法人東京青年会議所創立75周年を心からお慶び申し上げます。

東京青年会議所は、戦後まもない昭和24年、「新日本の再建は青年の仕事である」という崇高な志に基づき設立されました。以来、75周年を迎える今日まで、「明るい豊かな社会の実現」を目指し、様々な活動を展開して、地域社会の発展に貢献しております。

歴代理事長をはじめ、役員、会員の皆様のご尽力に、改めて深く敬意を表します。

今日、気候危機、エネルギー危機、自然災害、不安定な国際情勢、感染症など世界規模の課題が、私たちの地域や生活に大きな影響を与えています。少子高齢化、人口減少といった構造的な課題にも対応していかなければなりません。ピンチをチャンスに変える柔軟な発想と、それを実現していく行動力が求められています。

未来を切り拓くのは、いつの時代も「人」です。東京都はこれからも、都市の活力の源泉である「人」に光をあてた政策を展開します。チルドレンファーストの下、全ての子どもたちを社会全体で応援し、女性や高齢の方、障がいのある方、誰もが輝くよう政策を一層磨き上げていきます。

東京青年会議所の皆様には、今後も、東京、さらには日本の成長を牽引するリーダーとして活躍されることを期待いたします。持続可能な東京の未来、日本の未来と一緒に創り上げていきましょう。

東京青年会議所の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍、ご健勝を心より祈念申し上げ、祝辞といたします。



## 特別区長会 会長 吉住 健一様

公益社団法人東京青年会議所の創立75周年を心からお慶び申し上げます。

東京青年会議所におかれましては、昭和24年に日本で初めての青年会議所として発足されて以来、「明るい豊かな社会の実現」という理念の下、全国の青年会議所の先頭に立って多彩な取組を展開し、地域社会の発展に貢献してこられました。これもひとえに、歴代理事長、役員、並びに会員の皆様のご尽力の賜物であり、心から敬意を表します。

さて、特別区は、960万人を超える人びとが暮らし、1,200万人を超える人びとが活動する、日本を代表する大都市です。特別区では、区民の日常の暮らしが全国各地域に支えられていることを踏まえ、東京と地方がともに発展・成長することが日本の元気につながると確信し、23区一丸となって「全国連携プロジェクト」を推進しています。そして、この活動も本年、10周年を迎えます。人口減少社会を迎え、地域の崩壊や経済の衰退などが懸念されている今、地域の活力向上が何より求められています。東京と全国各地域が連携し、経済の活性化とまちの元気を目指し、共存共栄する道を探っていく。これは行政の力のみでは限界があり、共創によりなし得るものです。ともに力を合わせ、人々が温かな心で結び合う地域社会の実現を目指していきましょう。

結びにあたり、東京青年会議所のますますのご発展、並びに会員の皆様のご健勝とさらなるご活躍を心より祈念申し上げます。



## 東京商工会議所 会頭 小林 健様

このたびは、公益社団法人東京青年会議所が創立75周年をむかえられましたことを、心からお祝い申し上げます。

東京青年会議所は、戦後間もない昭和24年に「新日本の再建は青年の仕事である」という志のもと、情熱を持った青年経済人が集い創立されました。創立当初、「東京青年商工会議所」と命名され、私共と非常に近い存在でありました。以来、75年にわたり、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、精力的に活動されてこられた歴代理事長をはじめメンバーの皆様のご尽力に深く敬意を表します。

さて、東京商工会議所は「東京の発展・変革に挑む」を中期スローガンに掲げ活動を展開しております。昨今の深刻な人手不足、物価高やエネルギー価格の高騰など、中小企業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありますが、企業の自己変革による生産性向上と付加価値拡大、取引価格適正化を確実に進め、中小企業においても裾野の広い賃上げを継続し、経済の好循環につなげてまいりたいと考えております。

また、本年7月3日には東京商工会議所初代会頭の渋沢栄一翁の肖像画となる新一万円札が発行されました。東京商工会議所といたしましても、渋沢翁の「民の繁栄が、国の繁栄につながる」という信念を引き継ぎ、地域経済社会の発展と中小企業の課題解決に向けて全力で活動してまいります。

結びに、東京青年会議所の一層のご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

# ご祝辞

第73代会頭  
公益社団法人日本青年会議所  
小西 毅 様



公益社団法人東京青年会議所の皆様、創立75周年、誠におめでとうございます。75年という長きにわたり、地域に多くの運動を生み出してこられたことに對して、心より敬意を表します。また日頃より公益社団法人日本青年会議所に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

創立より先輩諸氏の熱き想いを継承し、75周年の記念すべき年に、高木隆太理事長のもと、スローガンに「Design Our Tokyo～未来のための継承～」を掲げ、明るい豊かな社会を実現するため、地域に影響を与える運動を推進されていることと存じます。貴青年会議所のメンバーが夢や希望を抱き、明るい未来に向けて、社会の課題を解決するための変革を起こすことで、組織と文化を次代へ継承するための節目の年となるよう願ってやみません。高木隆太理事長の掲げる運動が地域の発展に寄与され、誰一人取り残さない、誰もが活躍できる組織として、貴青年会議所のメンバーの成長へと繋がりますことをお祈り申し上げます。

日本青年会議所では、「親切心が織

りなす豊かさで笑顔あふれる未来へ」を基本理念に掲げ、一人ひとりの会員の優れたリーダーシップを開発することを目的とし、素朴で純粋な親切心をもって、各地の皆様と手を取り合い、明るく豊かな社会を実現させるために様々な運動を展開しております。引き続き深いご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、日本青年会議所を大いにご活用いただければ幸いです。

結びに、貴青年会議所のさらなるご発展、並びに地域において素晴らしい運動の成果を出されること、さらに、現役会員、先輩諸氏の皆様にとって本年が素晴らしい一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。

JCI (国際青年会議所)  
2024年度会頭  
カビン・クマール・クマラベル 様



親愛なる2024年度東京JC理事長の高木隆太殿、東京JCの皆様  
創立75周年という記念すべき日を迎えられること、誠におめでとうございます。

はリーダーシップと革新の光であり続け、日本のみならず世界の数々のLOMの模範となってきました。皆さんの揺るぎない献身（コミットメント）により、日本は世界最大かつ最も影響力のある国家組織（NOM）のひとつとなりました。

この75年間、東京JCは積極的な変革の精神を体現し、地域社会とその先にある世界に変革をもたらすための努力を続けていらっしゃいました。皆さんの取り組みや事業は、数え切れないほどの人々の生活に影響を与えただけでなく、他のLOMが倣う（見習う）きっかけにもなったことでしょう。今年のキーワードの「Let's Make a Difference（違いを生み出そう）」は、

皆さんのこれまでの歩みと、築き続けてきた不朽の伝統を見事に言い表しています。

この素晴らしい節目を祝うとともに、その功績を振り返り、新たなエネルギーと決意を胸に、未来に向かって進んでいきましょう。皆さんの献身と情熱は、皆が同じ目標に向かって力を合わせれば成し遂げられることの証です。

私たちの愛する組織への並々ならぬ貢献と、率先垂範に感謝します。これからも末永く成功を収め、変化をもたらしてください。

今後ともよろしく願いいたします。

東京JCシニアクラブ  
世話人代表  
安藤 公一 様



公益社団法人東京青年会議所が創立75周年を迎えるにあたり、心からのお祝いを申し上げます。シニアクラブ代表として、東京JCの長い歴史と築き上げてきた多くの成果を讃えると共に、

日本の青年会議所運動をけん引し続ける東京JCメンバー皆様の活動に深い敬意を表します。

東京JCは地域社会の発展に貢献し、青年のリーダーシップ育成に努め、SDGsに取り組む活動や教育支援のプロジェクトで素晴らしい成果を上げてきました。また、コロナ禍や能登地震の際には迅速に対応し、医療従事者への支援や地域経済の活性化、災害支援に尽力されていると伺っております。昨年の全国大会東京大会の成功は、東京JCの活動にさらなる活力を与え、全国規模の青年会議所運動を促進する機会をもたらしました。この経験は今

後の活動において大きな財産となることを確信しております。

東京JCは時代の変化に適応し、進化を続けてきました。地域社会の発展と持続可能な未来の実現に向けて、現役の皆様は情熱を持って取り組んでいただけることでしょう。私たちシニアクラブもその活動の支えとして、一層の貢献を目指してまいります。更なる発展と繁栄を祈念し、共に歩んでまいりましょう。

最後に、関係者の皆様には変わらぬ温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

安藤 公一



## 東京青年会議所の歴史



# 理事長総覧

1949  
初代理事長  
三輪 善兵衛

1950  
第2代理事長  
黒川 光朝

1951  
第3代理事長  
小坂 俊雄

1952  
第4代理事長  
堀越 喜雄

1953  
第5代理事長  
服部 禮次郎

1954  
第6代理事長  
山本 恵造

1955~56  
第7代理事長  
丸 晋

1957  
第8代理事長  
山崎 富治

1958  
第9代理事長  
小林 敦

1959  
第10代理事長  
廣海 泰三

1960  
第11代理事長  
瀬味 保城

1961  
第12代理事長  
芹澤 新二

1962  
第13代理事長  
小菅 茂彌

1963  
第14代理事長  
宮入 正則

1964  
第15代理事長  
林 正久

1965  
第16代理事長  
柳澤 昭

1966  
第17代理事長  
鈴木 敏夫

1967  
第18代理事長  
牛尾 治朗

1968  
第19代理事長  
松本 誠也

1969  
第20代理事長  
中村 和正

1970  
第21代理事長  
新田 満夫

1971  
第22代理事長  
村山 好弘

1972  
第23代理事長  
前田 完治

1973  
第24代理事長  
山崎 至朗

1974  
第25代理事長  
奥山 忠

1975  
第26代理事長  
浅地 正一

1976  
第27代理事長  
池田 彰孝

1977  
第28代理事長  
植田 新太郎

1978  
第29代理事長  
辰野 克彦

1979  
第30代理事長  
水野 毅一

1980  
第31代理事長  
黒川 光博

1981  
第32代理事長  
勝亦 俊之

1982  
第33代理事長  
木村 周正

1983  
第34代理事長  
小島 陽一郎

1984  
第35代理事長  
小坂 俊幸

1985  
第36代理事長  
服部 仁基

1986  
第37代理事長  
山本 泰人

1987  
第38代理事長  
渡邊 佳英

1988  
第39代理事長  
和田 光司

1989  
第40代理事長  
阿部 義和

1990  
第41代理事長  
田中 常雅

1991  
第42代理事長  
小林 元治

1992  
第43代理事長  
中村 節雄

1993  
第44代理事長  
島影 幸有

1994  
第45代理事長  
廣川 隆一

1995  
第46代理事長  
大島 博

1996  
第47代理事長  
枝見 太郎

1997  
第48代理事長  
佐藤 康雄

1998  
第49代理事長  
長谷部 亮平

1999  
第50代理事長  
馬場 章夫

2000  
第51代理事長  
渡邊 哲雄

2001  
第52代理事長  
塩澤 好久

2002  
第53代理事長  
西野 晃透

2003  
第54代理事長  
平 将明

2004  
第55代理事長  
古谷 真一郎

2005  
第56代理事長  
西村 剛敏

2006  
第57代理事長  
高橋 克之

2007  
第58代理事長  
松本 直勝

2008  
第59代理事長  
相澤 弥一郎

2009  
第60代理事長  
梶野 慶太

2010  
第61代理事長  
安藤 公一

2011  
第62代理事長  
奥山 卓

2012  
第63代理事長  
星間 太郎

2013  
第64代理事長  
笹島 潤也

2014  
第65代理事長  
菅原 敬介

2015  
第66代理事長  
中村 豪志

2016  
第67代理事長  
中原 修二郎

2017  
第68代理事長  
波多野 麻美

2018  
第69代理事長  
石川 和孝

2019  
第70代理事長  
塩澤 正徳

2020  
第71代理事長  
伊澤 英太

2021  
第72代理事長  
外口 真大

2022  
第73代理事長  
山本 健太

2023  
第74代理事長  
下山田 敬介

# 東京青年会議所の歴史

History of JCI Tokyo

- 1949** 三輪善兵衛氏らによる  
東京青年商工会議所設立
- 1950 商工会議所法の制定により東京青年会議所と改称
- 1951 日本青年会議所設立（設立時10青年会議所）
- 1957 第6回全国大会東京大会
- 1960 社団法人の許可を受ける  
（民法第34条に規定された公益法人）
- 1969 小松川運動「横断歩道は手を挙げて渡りましょう」
- 1974** 4地区合同例会  
中国青年訪日団交歓会  
→日中青年経済人文化交流へ発展・継続
- 1975** 23地区委員会設置
- 1977** 第1回わんぱく相撲東京都大会
- 1989 9月10日 JCIソウル 姉妹LOMとして締結
- 1991 第40回全国大会東京大会
- 1997 中長期ビジョン策定
- 1998** 公開討論会初開催
- 2000 11月8日 JCIマニラ 姉妹LOMとして締結  
11月10日 JCI台北 姉妹LOMとして締結  
中長期ビジョン策定
- 2001 都議・区長・参議院議員選挙の公開討論会
- 2002 中長期ビジョン策定

## 1949 三輪善兵衛氏らによる 東京青年商工会議所設立



1949年東京青年会議所は、東京青年商工会議所として、48名の志ある青年達によって日本に先駆けて設立されました。

## 1975 23地区委員会設置



地区委員会が設置された背景は、会員数が1,000名を超え首都大型LOMとなり、より地域に密着した運動を展開するため、また多くの会員に機会を提供するためでした。

## 1989 9月10日 JCIソウル 姉妹LOMとして締結



JCIソウル

## 2000 11月8日 JCIマニラ 姉妹LOMとして締結 11月10日 JCI台北 姉妹LOMとして締結



JCIマニラ



JCI台北

- 2003 Vision Tokyo 2003
- 2007 中長期ビジョン策定
- 2009 60周年記念式典開催
- 2011 公益社団法人格の取得
- 2012 公開討論会 2.0 (WEB 選挙公開)  
11月5日 JCIシティ シンガポール 姉妹LOMとして締結  
東日本大震災の復興を想い復興支援事業を続行
- 2013 2020年東京オリンピック・パラリンピック  
招致実現への協力
- 2014 わんぱく相撲モンゴル大会の開催  
JCI世界会議にてアワード受賞  
65周年記念式典開催
- 2015 第28回国際アカデミーin東京を開催
- 2016 第5回都民意識調査の実施
- 2017 6月9日 JCIセントラル 姉妹LOMとして締結  
ダイバーシティマネジメント推進  
マニラJCとの連携プログラムでJCIアワード受賞
- 2018 中小企業向けSDGs推進マニュアルの作成・配布  
「わんぱく相撲」東京23地区全大会  
外部団体への移管完了
- 2019 70周年記念式典開催
- 2020** 中長期ビジョン策定  
新型コロナウイルス感染症拡大
- 2021 中長期ビジョンに基づいた運動スタート
- 2022 全国大会準備委員会
- 2023** 第72回全国大会東京大会  
11月16日 JCIバタビア 姉妹LOMとして締結
- 2024** 75周年記念式典開催

## 2012 11月5日 JCIシティ シンガポール 姉妹LOMとして締結



JCIシティ シンガポール

## 2017 6月9日 JCIセントラル 姉妹LOMとして締結



JCIセントラル

## 2020 中長期ビジョン策定



単年度制をとっている青年会議所で、運動に連続性と網羅性を持たせるため、また対外に東京青年会議所が目指す具体的な社会像を伝えるために策定された。

## 2023 第72回全国大会東京大会



2020年からの新型コロナウイルス感染症の蔓延により、2023年度の全国大会開催が危ぶまれ、LOMナンバー001である東京青年会議所が主管を名乗り出て、32年ぶりに全国大会東京大会が開催された。

## 2023 11月16日 JCIバタビア 姉妹LOMとして締結



JCIバタビア

# 東京青年会議所の成り立ちと代表的な運動

## 東京青年会議所の成り立ち

第二次世界大戦が終戦した約4年後、ポツダム宣言が受諾され日本国憲法公布・施行を経て、1949年9月3日に総会が開かれ、初代理事長である三輪善兵衛先輩をはじめとする48名の志ある青年達によって日本に先駆け「東京青年商工会議所」が創設され、1950年に商工会議所法の制定により「東京青年会議所」と改称されました。

設立趣意書から読み取れるように青年経済人として、国内経済の充実と国際経済との密接な連携を図ると記載されており、経済の目線で新日本の再建を志したと考えます。

この波は全国各地に広がり、全国で青年商工会議所が設立されました。全国の青年商工会議所は、全国JC懇談会を開き日本青年会議所の設立の論議を始め、1951年2月9日に001東京、002大阪、003前橋、004函館、005西宮、006名古屋、007旭川、008一宮、009岡山、010浜松の、10の青年会議所で日本青年会議所を立ち上げました。

日本青年会議所の初年度の事業の一つにJCIとの提携をかけた、1951年5月にモントリオールで開かれた第6回JCI世界会議に東京JCから黒川光朝（会頭、三輪善兵衛先輩、森下泰先輩、岡谷康治先輩、西宮JCから八木弦三郎先輩、また、横浜JC創立貢献者とされている丹波裕先輩の6名の代表団を派遣しまし

た。当時のJCI会頭はマニラJCのロザリオ氏から「JCには国境も民族もない。それは全世界の青年のものである。その誇りにおいて、われわれはいまここに、かつての敵国日本のJC代表団を心からなる歓迎をもって迎えようとする。」とスピーチをいただきJCI正式加盟に成功しました。

### ■東京JCのスポンサーLOM

JCIマニラ

### ■海外姉妹LOM

JCIソウル

JCIマニラ

JCI台北

JCIシティ シンガポール

JCIセントラル

JCIバタビア



## 地区委員会の成り立ち

1974年、東京青年会議所25周年の年に第25代理事長奥山忠先輩が、創立以来初の地区例会を4月9日と4月16日に城東、城西、城南、城北の4か所で開催し

ました。初めての地区例会が実現したのは、会員数1,000名を達成した東京青年会議所が、日本青年会議所の組織運営特別委員会に組織と運営の改正について訪問したことに始まります。訪問を受けた委員会は「マンモス首都青年会議所の活動をより地域と密接にして効率を上げるためにブロック制の採用」を答申し、その依頼事項の一つとして「地区例会」の実行をあげられました。

地区例会では現在の会務政策委員会の働きをしていましたが、より地域に密着した運動を行うように1975年に東京都23区に地区委員会が設置されました。23区の地区委員会が設置されたことによって、東京青年会議所はブロック制度のような形になりました。その特徴として、

- 1.東京JCはLOMである
- 2.会員拡大を推進する
- 3.東京23区の地域社会へのつながりを密接にする
- 4.100~200名の地域ブロックに組織体を分ける
- 5.会務統括（LOMとしての会務を行う）と事業報告（LOMとしての事業をコントロールし実行プロジェクトチームを編成する）を設置する
- 6.役員数は現状通りとする

の6つがあげられました。

「1.東京JCはLOMである」こと、「5.会務統括(LOMとしての会務を行う)と事業報告(LOMとしての事業をコントロールし実行プロジェクトチームを編成する)を設置する」ということから、大型JCの経営を新しい形態にするべく既成の会務系委員会と23地区それぞれに地区委員会を設置し、大きく2つに分けました。当時は会員数が1,000名を超えていたため、地区委員会と会務政策委員会を分散させることにより、会員により多くの機会の提供を与え、社会課題解決のための多くの運動が実現可能となりました。このような制度は国内で唯一、東京青年会議所のみです。

## 小松川運動

子どものころ「横断歩道は手をあげてわたりましょう」と教えられてきた方も多いのではないでしょうか。実はこの「横断歩道は手をあげてわたりましょう」というのは、東京青年会議所を代表する社会運動「小松川運動」から生まれました。

1969年に東京青年会議所が実施した東京都民の生活意識総合調査「東京の魅力」の、「東京の欠点」とい

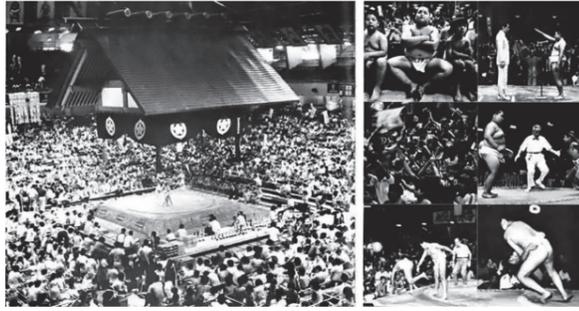


う設問に対し、87.9%が「交通事故が多いこと」に関心を持っており、東京都民共通課題の交通事故を減らすため、小松川運動が始められました。

この運動は地元の小松川署、小松川交通安全協会が全面的な協力の手を差し伸べ、小中学生・PTAの代表など1,300名が参加する運動となり、小松川交通安全協会の下、全小学校から600名の生徒からなる交通少年団が結成されたのです。

この小松川運動が実施された背景には子どもの交通事故の増加がありました。1960年代、高度経済成長とともに急増する交通量に、東京の道路事情は悪化の一途をたどり多大なる交通事故死亡者を出していました。1965年から1969年の過去5年間の当時の子どもの事故を見ると、1969年が死亡13名、重傷者69名、軽傷者342名と一番交通事故が多かったことが分かります。

小松川運動を行う前の1969年と行った後の1970年の小松川地区の交通事故数を比較すると、全事故発生数2,522件が2,078件へ444件に減少し、死亡者数38名が18名へ20名の減少、うち子どもの死亡者数13名が2名へ11名の減少となり奇跡といつてよいほどの減少率となり、住民を巻き込んだ運動の大成果をあげました。



## わんぱく相撲

「わんぱく相撲」は1976年に社団法人東京青年会議所（当時）が実施した東京・23区の魅力度・第2回都民生活意識調査報告書に基づき、遊び場の少ない東京の子どもたちにスポーツの機会をより多く与え、心身の鍛錬と健康の推進を目的として、身近に行えるスポーツである「相撲」をとりあげ、1977年に社団法人東京青年会議所が、23区全域に運動として展開したことに始まります。

相撲の大会は全国で開催されていましたが、【わんぱく相撲】として1976年にはじめてのが墨田区委員会、その翌年1977年に23区全域で開催されています。記念すべき第1回目の開催地は墨田区の八広にある吾嬬第二中学校の土俵です。

「その後、1981年に社団法人東京青年会議所が財団法人日本相撲協会（当時）と協力して、「わんぱく相撲の手引き」を作成のうえ、全国の市町村教育委員会並びに各地の青年会議所に無料配布し、全国への普及運動も並行して行っていました。

わんぱく相撲は日本国内200地区（主催青年会議所単位）の予選大会から勝ち上がり、東京・両国国技館で決勝にあたり、全国大会が開かれる、小学生対象で最大規模の相撲大会です。

わんぱく相撲は、「スポーツとしての相撲」を通じ、「礼」を学び、「努力する」ことや「思いやり」等、社会生活に必要な徳性の場を与え、「わんぱく相撲全国大会」を開催することで子どもたちに夢を与え、励みとすることができます。「明るい豊かな社会」作りを目指す各地青年会議所の基本的な理念であるコミュニティの形成という重要な役割を果たすと同時に「心豊かな青少年の育成」を強力に推進することができます。広く保護者並びに関係諸団体からも期待される「わんぱく相撲大会」は地域社会に適合し、「JCの主要事業」となっています。

2019年からは、「わんぱく相撲女子全国大会」を東京青年会議所から、葛飾区にてはじめています。2020

年はコロナの影響で開催できませんでしたが、2021年は愛知県名古屋市にて、2022年は沖縄県浦添市にて、2023年は新潟県新発田市にて開催され、2024年は愛媛県松山市にて開催される予定です。

## 公開討論会

公益社団法人東京青年会議所は、2000年以来、国民の皆様が政治に関心を持てるようにする土壌を創ることを目的に、東京23区内で行われる選挙があるたびに公開討論会を開催してまいりました。

この公開討論会を行うようになった背景には、各種選挙における投票率の低下がありました。戦後に行われた衆議院議員総選挙における投票率をみると、1946年に行われた戦後初の総選挙では投票率は72.08%を記録していました。しかし2017年に行われた総選挙では投票率は52.66%で、投票率の低下の要因と考えられるのは投票システムの問題と政治に直接触れる機会が少ないためであり、子育て世代を含む全ての市民が主権者として候補者の主張を自らの視点で比較・分析した上で思想・信条に沿った投票行動が求められていました。

選挙に参加する有権者の数が少ない現状では、有権者の意思が正しく政治に反映されず、世代を問わず主権者意識の向上は不可欠です。子育て世代が投票をしっかりと行うことで、その子どもたちは幼い頃から政治を身近に感じる環境ができ、投票行動に繋がるといふ第三者機関の調査結果からも、子育て世代だけでなく次世代の政治参画意識と主権者意識の向上にも繋がります。そして市民の政治参画意識が向上することで、市民自らが選んだ政治家の活動を監視し、自ずと政治家の行動も変化することになるでしょう。その継続こそが政治の質が上がることに繋がっていきます。

当会議所が公益社団法人として「明るい豊かな社会」を築くためには市民一人ひとりが政治に意欲的に参加することが重要であり、公開討論会はそれを促すうえで有用な方法であると考えています。



2020年度  
コロナ禍における  
運動について



# 2020年度 コロナ禍における運動について

2020年、新型コロナウイルスが蔓延し、世界がその影響を大きく受けました。

未知のウイルスの脅威から命を守るために、世界ではロックダウンが、日本では4月7日に緊急事態宣言が発令され、人々は不要不急の外出を控えるようになり、経済活動が停滞しました。その中でも東京青年会議所は運動を止めることはありませんでした。

情勢の変化が激しく、通常の上程フローでは事業を行うことが困難であったため、1週間程度で実行できるようにラインの副理事長と財務審査特別委員会の許可が取れば事業開催を認める緊急対策を行いました。

状況に応じて理事会や例会などをZoomを利用して開催し、APICCの各国の理事長ともZoomにてそれぞれの国の状況と対策を共有しました。

2020年度はオリンピック開催の年であったため、23地区

委員会が各国の大使館と連携し、ともに事業を構築する計画をしていました。その関係性を活かし、連携していた大使館を通じて、マスクリレー企画を行い、絆を深めました。

「東京JC新型コロナウイルス感染症特設サイト」を構築し、新型コロナウイルス感染拡大防止と、コロナ禍で外出自粛や休業を余儀なくされ、市民の生活や働き方が大きく変化している状況に対応した、新しい日常の行動、事業を社会に発信し続けました。

また、新型コロナウイルスの影響で2023年度の全国大会開催が危ぶまれました。このようなときこそリーディングLOMであるLOM認証番号001の東京青年会議所がやるべきだと声を上げ、全国大会を主管することを決めました。

未知な状況にも関わらず1年間を通じ、このような有事の際だからこそ足を止めることなく、状況に応じて運動を展開してきた東京青年会議所は全国でも模範となるLOMです。

1月

## 1月例会 | 中長期ビジョン策定特別会議 新年賀詞交歓会『新時代を切り開く東京 ～変化に強い人材が溢れる社会を目指して～』

2019年度の70周年記念式典の御礼参りでJCIソウル、JCIマニラ、JCI台北、JCIシティ シンガポール、JCIセントラルの5か国の新年賀詞交歓会に参加



2月

## 2月例会 | 経済政策委員会 中小企業よ、 新たな時代を切り開け!

新型コロナウイルス感染拡大に関する総理大臣による記者会見



3月

## 3月例会 | 共生社会政策委員会 新たなる共生社会の実現 ～Special Works Matching～

初めてのZoomを使用した例会の開催  
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の1年程度の延期が決定



4月

## 4月例会 | 政治行政政策委員会 君の声で世の中が変わる!

開催延期▷10月第一例会  
初めての緊急事態宣言発令

5月

## 5月例会 | 教育政策委員会 家庭・地域・学校で 育む子どもの自己肯定感

開催中止

6月

## 6月例会 | スタートアップアカデミー特別委員会 「自律」した人財とは何か? ～改めて考える体・技・心～

新型コロナウイルス感染拡大の影響で2023年度の全国大会開催が危ぶまれる  
南多摩霊園にて三輪善兵衛先輩のお墓参り（ご存命であれば100歳の節目）



7月

## 7月例会 | 東京JC2020特別委員会 Friendship TOKYO in the New Normal

全国大会の動向についてヒアリングをするため、  
2020年度日本JCの石田会頭を訪問する



8月

## 8月例会 | ブランディング特別委員会 言葉の力で新時代を切り開け



9月

## 9月例会 | 中長期ビジョン策定特別会議 未来は僕たちの中にある ～You can create the world～

東京青年会議所が全国大会を  
主管することを検討する



10月

## 10月第一例会 | 政治行政政策委員会 君の声で世の中が変わる!

## 10月第二例会 | 財務運営委員会 「企業×JCI東京」 ～繋げて起こせよムーブメント～

札幌にて全国大会開催

全国大会宮崎大会についての話を伺うため、宮崎の理事長に会いに行く

東京ブロック内の各理事長に東京青年会議所が全国大会を主管することについて承認を得る



11月

## 11月例会 | 国際政策委員会 「自己主張」出来る人財を作る

横浜にて世界会議開催

関東地区内の各理事長に東京青年会議所が  
全国大会を主管することについて承認を得る



12月

## 12月例会 | 例会運営委員会 卒業式『新時代を切り開く東京 ～変化に強い人材が溢れる社会を目指して～』

日本JCの最終理事会にて全国大会主管が正式に決定し、  
2023年1月の京都会議にて「主管契約締結式」が執り行われた



<取材協力>

伊澤英太先輩

2020年度 第71代理事長 ご卒業  
2021年度 シニアの全国大会実行委員長を拝命する  
コロナがなければできないようなことを色々  
やらせていただいたとお話されていた



小林誠人先輩

2020年度 理事 東京JC2020特別委員会 委員長  
2023年度 専務理事 ご卒業  
コロナ禍でも足を止めず運動を行ってきたと  
お話しされていた





## 中長期ビジョンとは

青年会議所は、綱領に示されているように、「明るい豊かな社会の実現」を基本理念としています。この理念は永劫不変のものとしていますが、「明るい豊かな社会」という言葉そのものが具体性を持っているのではなく、その具体的なあるべき姿は、その時代や社会情勢に応じて常に変化していくものとされています。

「中長期ビジョン」は、時代や社会情勢に応じた、具体的なあるべき姿を示すものです。したがって、時代に応じて常に更新を行っていく必要があります。概ね5年ごとに見直しを行っていくこととされてきました。しかし、この変化の目まぐるしい現代においては、5年という期間にとらわれることなく、随時、見直しを検討されることが推奨されます。

## 持続可能な幸福中心社会



※中長期ビジョンが初めて策定されたのは1997年です。

# 共生

SYMBIOSIS POLICY



理事・室長  
神谷亮介



委員長  
松村知幸

## 定常化を前提とした持続可能な共生型社会をつくる

共生政策では「定常化を前提とした持続可能な共生型社会をつくる」というビジョンのもと、「人と地球」、「人と人」をテーマに運動を展開してまいりました。

### これまでの推進運動

2021年と2022年はカーボンニュートラルをテーマに、東京都や環境省、東京JCシニアクラブと共創を行い、2023年は持続可能な消費行動エシカル消費を株式会社セブン&アイ・ホールディングス、一般社団法人エシカル協会らと共に「人と地球」に軸を置いた運動を共創してまいりました。本年度2024年は「人と人」を軸に、人と人のつながりをテーマに児童養護施設への支援のマッチングをテーマに株式会社Coco壱番屋の創業者であられます宗次徳二様、資生堂子ども財団などの支援者とともに共創を行いました。

2021年

2022年

2023年

2024年

2025年

## カーボンニュートラルの促進



人と地球との持続的な共生関係の構築

自走可能な運動とすることで社会にインパクトを与え続ける

●主な共創パートナー（順不同）東京都、消費者庁、環境省、東京商工会議所、慶應義塾湘南藤沢高等学校、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、株式会社コニクロ、株式会社日経BP など

「人と地球」の視点において、2021年に2050カーボンニュートラル脱炭素社会に向けて意識改革を行う為にカーボンニュートラル宣言を普及する運動を展開しました。2022年はカーボンニュートラルをさらに促進するために、脱炭素への認知拡大。つまり生産者と消費者の行動変容を行いました。2023年にはエシカルな経済活動の意識醸成を行い、持続可能な生産・消費活動の促進を運動として展開することでカーボンニュートラルの促進を行いました。2024年は引き続き、カーボンニュートラル宣言、エシカル消費の認知拡大を行いました。2025年以降、東京都、消費者庁、環境省をはじめとするたくさんの共創パートナーと共に人と地球の持続的な共生関係を目的に運動を構築していくべきであると考えます。

2024年

2025年

## 人間を中心とした都市づくり



●主な共創パートナー（順不同）株式会社壱番屋、資生堂子ども財団、世田谷区、ライオンズクラブ国際協会330-A、株式会社フェアスタート、社会福祉法人光明会杉並学園

また「人と人」を結びつける人間を中心とした都市づくりとして、児童養護施設と支援を行いたい企業をプラットフォームにてマッチングを行い人と人とのつながりをもたらし運動を展開いたしました。株式会社壱番屋、公益財団法人資生堂子ども財団をはじめとするたくさんの共創パートナーと共に人と人との共生社会の実現を目的に2025年以降運動を展開していくべきであると考えます。

# 国際

INTERNATIONAL POLICY



理事・室長 小金隆二  
委員長 江口大三郎

## 各国の課題が共通であることを理解し 協働的解決をリードする

国際政策では「各国の課題が共通であることを理解し、協働的解決をリードする」というビジョンのもと、「多文化共生社会の実現」、「恒久的世界平和の実現」をテーマに運動を展開してまいりました。

### これまでの推進運動

2021年と2022年はイノベーションをテーマに、2023年は日本企業の高付加価値化をテーマに国際協働の形を模索し、本年度2024年は海外からの学びをテーマに、国際政策を行ってまいりました。

2021年

2022年

## 日本の企業における新付加価値創造



### 生産性の飛躍

世界に先駆けたイノベーションによる生産性向上



### 国際連携で価値を創出

国際連携の必要性を示し 価値の収益化に焦点

2023年

2024年

2025年



### 多文化共生で広がる可能性

国際連携でのイノベーションと 姉妹LOMとのビジネスマッチング

●主な共創パートナー（順不同）東京都、文科省、中小企業庁、独立行政法人日本貿易振興機構、東京商工会議所



### 恒久的世界平和と 真のグローバル化

オープンイノベーションによる 海外からの学びを取り入れることの実践

多文化共生による 世界平和

パートナーと共に 協働事業を行い 世界との友情を育む

このように2021年から始めた運動も現在まで継続されており、年々運動を積み重ねてきており、2025年に向けて運動をつなげてまいりました。

### 各国の課題が共通であることを理解し 協働的解決をリードする

2025年はこれまで構築した国内・国外のあらゆるパートナーとの関係・連携を最大限に活かし、国際協働による1つの形を作るべきだと考えます。それは、ビジョンにもある通り、国際的な共通課題をパートナーと共に捉え、協働して事業を行い解決に向け取り組むことであると考えます。

その先には1人ひとりが各国の人々と繋がり、人と人を通して多文化共生の実現、その先こそ恒久的世界平和の実現がなせることでしょう。

# 福祉

WELFARE POLICY



理事・室長 小林達也

## 定常化を前提とした 持続可能な福祉社会をつくる

福祉政策では「定常化を前提とした持続可能な福祉社会をつくる」というビジョンのもと、「住民参加システム構築による社会福祉の実現」、「定常化社会に向けた子育て支援の充実」をテーマに運動を展開してまいりました。

### これまでの推進運動

2021年は、誰もが福祉を担う主体となるべく「我が事意識」の醸成。2022年は地域の多様な主体が支え合う新たな仕組みの構築を目指し、「ソーシャルグッド」をキーワードに、地域社会に参画する主体としての企業を増やす運動を展開。2023年は防災協定の締結から地域団体等との協力体制の充実、東京都などの行政とはベビーファースト運動を通じての連携を強め、多様な関係機関と協働の関係構築をしました。2024年はこれまでの繋がりから、「子育て支援・応援」していく社会を目指した運動を行っています。

2021年

2022年

## 日本の企業における新付加価値創造



### 我が事意識の醸成

福祉社会における地域住民、行政、事業者の 相互扶助関係の充実



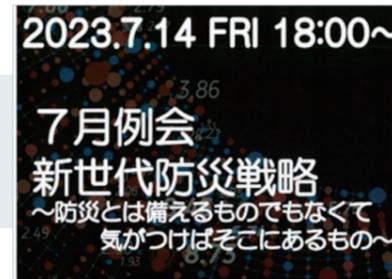
### 地域課題への取り組み促進

地域一体となり、地域課題解決に取り組む必 要性を伝える（ソーシャルグッド）

2023年

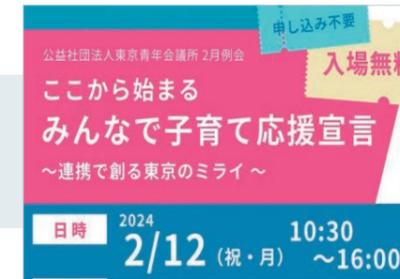
2024年

2025年



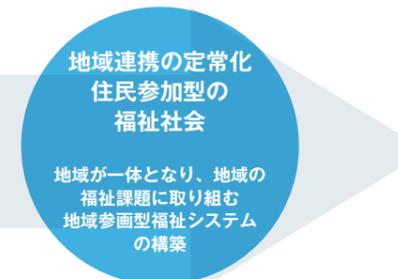
### 地域団体・行政との連携と協働

防災協定・ベビーファーストの締結



### 地域社会全体で連携・協働できる体制の構築

ワーキンググループから 地域の子育てを応援



### 地域連携の定常化 住民参加型の 福祉社会

地域が一体となり、地域の 福祉課題に取り組む 地域参画型福祉システム の構築

●主な共創パートナー（順不同）東京都、厚生労働省、経済産業省、総務省、社会福祉法人東京都社会福祉協議会、23区×社会福祉法人社会福祉協議会、株式会社ウメザワ、公益財団法人味の素ファンデーション、一般社団法人ドローン操縦士協会 など

このように2021年から始めた運動は、地域住民・企業・行政等が主体となるべく「我が事」としての意識構築から始まり、ソーシャルグッドから「企業」、防災協定から「社会福祉協議会・地域団体」と連携し、本年度はこれまでの繋がりからワーキンググループを立ち上げ、子育て支援への運動へと連続性を持っています。

### 定常化を前提とした持続可能な 福祉社会をつくる

4年間で私たちは厚労省への政策提言、ソーシャルグッドの理解、防災協定、ワーキンググループなど4つの成果から、地域住民・企業・行政等が「支え手」「受け手」という関係を超越して、福祉を担う主体となり、横で連携をしていく運動を展開しました。2025年では、この横の連携を定常化し、地域や家庭を包括する社会全体の住民参加型による福祉サービスの構築を目指した運動を行ってまいります。

# 経済

ECONOMIC POLICY



理事・室長 壹岐寅彦  
委員長 宮本大志

## 新付加価値創造型経済を推進する

経済政策では「新付加価値創造型経済を推進する」というビジョンのもと、「新しいエコシステム、誰もが挑戦出来る社会をデザインする」ことをテーマに運動を展開してまいりました。

### これまでの推進運動

2021年は、SDGsに基づく商品と消費行動の土壌構築。2022年は、サステナビリティ・トランスフォーメーションへの認知・理解する企業を増やすこと、2023年はサステナビリティ・トランスフォーメーション・ウェルビーイングの理解と持続可能経済への転換促進と「企業の稼ぐ力と社会の持続性」に軸を置いた運動を【経済産業省や経済団体】とともに共創してまいりました。本年度2024年はスタートアップが、社会問題を解決するイノベーションの源泉ということから「起業にチャレンジすることのハードルを下げる」ことをテーマに運動を展開しております。

2021年

2022年

## サステナビリティ・トランスフォーメーションの促進



SDGsの活用

SDGsのオンラインワークショップ



SXを企業へ周知

企業の稼ぐ力と社会の持続可能性の両輪

2023年

2024年

2025年



働き方改革による経営の転換



社会問題を解決するビジネスモデルの促進



●主な共創パートナー（順不同）東京都、経済産業省、渋谷区、東京商工会議所、東京工業大学、一般社団法人東京ニュービジネス協議会、一般社団法人企業家同友会 など

このように2021年から始めた運動は、サステナビリティ・トランスフォーメーションという軸を持ち現在まで継続され、年々運動を積み重ねており、2025年に向けて運動をつなげてまいりました。

### 新付加価値創造型経済を推進する

4年間で私たちはSDGsの目標を基に企業の達成度を評価するスコアリングシステムを作成し、渋谷区にパブリックスコアを導入することで行政にインパクトを与えました。また、中小企業を中心にサステナビリティ・トランスフォーメーションの認知を広め、経済産業省への提言を通じて行政に私たちの活動を認知させました。また、企業の生産性向上と持続可能な経済システムへの転換が進み、ウェルビーイングの重要性が広く認識されました。さらに、アントレプレナーシップが活性化し、起業へのハードルが下がったという成果を得ることが出来ました。4年間の成果をまとめると中小企業の成長と持続可能な社会の実現に貢献し、社会全体での持続可能性の意識を高めることが出来ております。以上の成果と検証から2025年は、地方自治体や教育機関と連携し、地域ごとにイノベーションハブの設立をしていきます。

# 教育

EDUCATIONAL POLICY



理事・室長 宮崎辰也  
委員長 吉田篤史

## 課題創造型人財を創出する

教育政策分野では「課題創造型人財を創出する」というビジョンのもと、「STEAM教育の普及、生涯学習の推進」をテーマに運動を展開してまいりました。

### これまでの推進運動

2021年は、既存の学校教育ではない、世の中を生き抜く力としてのSTEAM教育を世の中に広めるきっかけ作りを行い、経済産業省みらいの教室ビジョンでも紹介されました。2022年は、そのSTEAM教育を家庭に普及させること、2023年は、国際的な交流プログラムを構築し、多文化交流から学ぶシステムを生み出すことに軸を置いた運動を【文部科学省や教育団体】とともに共創してまいりました。本年度2024年は、生涯学習を軸に、人生100年時代において学びを通じて自分自身の人生をデザインすることをテーマに運動を展開しております。

2021年

2022年

## STEAM教育・生涯学習の促進



STEAM教育の促進

画一的な知識伝達型から課題創造型への転換



STEAM教育の認知拡大

STEAM教育を家庭教育へ

2023年

2024年

2025年



多文化交流、宇宙をテーマに、学校のみならず企業をはじめとする地域社会との連携



人生100年時代における生涯学習の推進



●主な共創パートナー（順不同）東京都、東京商工会議所、STEAMJAPAN、トビタテ！留学JAPAN、株式会社東京リーガルマインド、公益財団法人日本学検定協会 など

このように2021年から始めた運動は、課題創造型人財の創出という軸を持ち現在まで継続され、年々運動を積み重ねており、2025年に向けて運動をつなげてまいりました。

### 課題創造型人財を創出する

この4年間で我々は、まずSTEAM教育に対する認知度の向上とともに、家庭でSTEAM教育に取組む重要性の意識を向上させてきました。STEAM教育の認知度を高め、世の中に広めていくことで、学ぶ意欲のある人々が増え、課題創造型人財を多く創出することができ、人生や社会の豊かさに繋がっていくと考えます。そして、学びは子ども達だけではなく我々においても、社会変化の激しい時代においては、高等学校や大学を卒業し、社会人となった後も更に学びを重ね、新たな知識や技能、教養を身に付けていくことが重要になります。さらに、出産や子育てなどの女性のライフステージに対応した活躍支援や若者の活躍促進の観点からも、生涯学習の推進がより一層求められています。そのため、学び直しの重要性の再認識と企業への生涯学習の導入を促すことで、生涯学習が広まるきっかけ作りを行ってまいりました。以上の成果と検証から、2025年は学びの成果として、人生をデザインし、社会をデザインする教育システムを構築していきたいと考えております。

# 政治行政

POLITICAL  
POLICY



理事・室長  
三好洋史



委員長  
田中久登

## 主権者である自覚を発現する社会の構築

政治行政政策では「主権者であるという自覚を発現する社会を実現する」というビジョンのもと、「実質的主権者教育の推進」「政策の合理的選択と容易な行動を可能に」「ICTを活用した政策要望の集約と発信」をテーマに運動を展開しています。

### これまでの推進運動

2021年は、模擬請願を水平展開し4学校での開催。この年に行った江戸川区立春江中学校で開催された本授業がきっかけで条例の改正が行われました。2022年は、広域展開をするために教育委員会との意見交換会、教材のパッケージ化、教員に対する副読本の作成を行いました。

2021年 2022年 2023年 2024年 2025年

## 実践的な主権者教育



2021年 2022年 2023年 2024年 2025年

## ICTを活用した政治・行政参画



2021年 2022年 2023年 2024年 2025年

## 政策の合理的選択



2023年は主な推進運動としては引き続き主権者教育分野の広域展開を実行フェーズに移し運動を展開しました。全国の学校3箇所にマニュアルや副読本を使い広域展開し、教育現場での活用が可能であることを実証いたしました。そして、2024年では主権者教育分野においては模擬請願の広域展開の次のフェーズとして、完全オンラインでの模擬請願授業をN/S高等学校にて行いました。またICTを活用した行政への住民参画を推進しており街歩きイベントを開催し、区民が気づいたことを行政に発信し行政からの回答もともにICTツールで行うという取組も行っております。以外にもICTを活用した区民参画アンケート50件程度を想定しており、こちらを行政に届けていく予定です。

### 主権者である自覚を発現する社会の構築

4年間で私たちは実践的な主権者教育を教育現場に提供してまいりました。またICTを活用した政治・行政参画のあり方を社会に発信し、政策の合理的な判断を容易にという分野では70回以上の各種討論会を実施し、政策を候補者ごとに横並びにする政策比較表をその都度作成してまいりました。



23  
地区委員会  
50周年

# 千代田区委員会

2024年度スローガン

Enjoy the challenge!  
Enjoy the change!



2024年度登録メンバー数 / 33名  
過去最高登録メンバー数 / 208名(1988年) 第50代委員長 岩崎洋太



## 千代田区委員会について

千代田区委員会は、地区内において『事業の千代田』と代々言われるように、歴代の先輩方が事業に力を入れて活動されてきました。千代田区委員会を名乗る以上、地域に、先輩方に誇れる事業をすべく活動しています。

委員会の雰囲気は、委員会中においては固くしっかりとやることを心掛ける一方で、委員会が終われば上下のないアットホームな雰囲気に一变します。『品格の千代田』という言葉も代々言い伝えられるように、千代田区委員会としての品格を持つよう、メリハリのある活動が沁みついているかと思えます。この雰囲気は現役メンバーと先輩方との間においても続いており、千代田区委員会の先輩方は「金は出しても口は出さぬ」と皆さんおっしゃり、現役の決めたこと、動きを尊重してもらえ、一方で困ったことがあった際は助けていただける関係にあることも、この委員会の居心地の良さにつながっているかと思えます。

近年はメンバーの多くが千代田区委員会以外にてスタッフなどを引き受け、地区委員会（or地区）の外側で活躍していますが、この千代田がホームであり、落ち着ける場所であってほしいと考えています。そのためにも、各メンバーができる範囲で千代田区委員会のなにかしらの役割をできるようにチーム制や声掛けなどを行っています。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

千代田区委員会において代表的な運動というより、よく見られる共通点としてあげられるのは、地区の課題に対する事業よりも国家規模の問題に対する事業が多いことかと思えます。2002年の「真の自律国家とは」、2004年の「国民主権と国のかたち」、2010年の「いま考える平和の意味とこの国のあり方」、2013年の「輝く日本のリーダーとは」等、枚挙にいとまがありません。勿論、地域に根差した課題も取り上げ運動を展開しま



すが、東京の中心である千代田から運動を展開することは、結果として日本全体からみたファーストベタであり、千代田から国を変えられる、社会にインパクトを与える事業が多いと感じます。よく「何故、日本JCでも東京JCでもなく、千代田区の地区事業でその課題を扱うのか」といった質問がありますが、これは国会、最高裁、永田町が存在し、名実ともに国の中枢が集まる場所という点が千代田区という地区の特性のひとつであるからです。東京23地区の中で、唯一地区の特性として国家を語ることが出来るのも、千代田の特徴と誇りでもあり、地区事業で国を語る伝統が生まれた所以と言われています。『事業の千代田』。この言葉がどの時点で、どこから生み出されたものなのかは今となってはわかりませんが、先輩方が自分たちの事業に誇りをもって実行されてきたから生まれた言葉であると思います。これからもこの伝統は受け継いでいきたいと考えています。

## Design Our 千代田区委員会

先の将来、私個人の考えとしては、まずは人数が減らずによりアクティブなメンバーが増えていることを目指して、メンバーのポジティブチェンジを促していきたいと考えています。いかにメンバーがいきいきと地域、社会に対して行動しているか。いきいきとしたメンバーが、より地域や社会に対して、アクティブな行動を起こしていくことが出来れば、東京青年会議所千代田区委員会のプレゼンスは必然的に上昇し、より社会からも求められる存在になり、メンバー数も必然的に増加するのでは（ないか）と考えています。

日本の首都である東京、そして東京の中心地である千代田区において、われわれ青年の力で社会を変革していくことができるようになれば、日本全体がより良い社会になるのでは（ないか）と期待しています。

ただの自分たちのエゴかもしれませんが、『東京、日本の中心地である千代田区が日本を変革していく！』そのような熱い思いを持った千代田区委員会のメンバーが、60周年、100周年と続いていき、それぞれの時代を先駆けた運動をしていくことを祈っています。

▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 杉並区委員会

2024年度スローガン

Happiness Smile  
～ワクワクしよう～



2024年度登録メンバー数 / 17名  
過去最高登録メンバー数 / 53名(1988年) 第50代委員長 後藤優美



## 杉並区委員会について

昨今の杉並区委員会は、JC歴の浅いスタッフを中心に杉並区委員会は構成されており、経営者だけではなく会社員も多い委員会となっています。また、立地の面もあり、23区内で一番東京ブロック協議会に近い委員会です。先輩方には、東京ブロック協議会の会長や顧問、副会長等の経験者が多く、多くの現役メンバーも東京ブロック協議会のアカデミーに出身経験があります。ここ何十年は、20名を超えることがない少数精鋭の委員会ですが、先輩方には日本青年会議所の会頭、東京青年会議所の理事長、専務、副理事長等、多くの役職を経験された先輩方のおかげで、杉並区委員会の枠を超え、東京青年会議所、東京ブロック協議会、日本青年会議所の魅力を知る機会に溢れ、現役メンバーを支えてくださいます。長年、築き上げられた土台のおかげで、チャレンジできる機会が多くあります。昨今は、JC歴の浅いスタッフが多いため杉並区委員会メンバーから新しい価値観や意見が多く、一つの転換期を迎えていると感じています。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

杉並区委員会では様々な事業を行ってきましたが、長年続けてきた事業は『ファーストエイド』事業と『わんぱく相撲杉並区大会』です。

### ●ファーストエイド事業

ファーストエイドとは、「急なケガや病気になった人に対しての最初の行動」のことです。ファーストエイド事業は、杉並区委員会が長年関わり、東京青年会議所全地区、他LOM等も巻き込んだ事業です。ファーストエイドインストラクター講習も開催されていました。東京JCの備品として、模擬人体2体を購入し、東京青年会議所全体に運動が広がりました。一時期は、新入会員オリエンテーションのプログラムの中に、組み入れられたとのことです。また、第10代窪田先輩の時に、初めて褒章を受章しました。



### ●わんぱく相撲杉並区大会

今年46回を迎えたわんぱく相撲杉並区大会は、コロナにより開催ができなかった年もありますが、長年杉並区で愛されています。わんぱく相撲杉並区大会実行委員会へ移管した形になりますが、先輩達が実行委員長を務めてくださり、先輩達との懸け橋ともなっている事業です。相撲の土俵は、第20代八方先輩の時に、杉並区の予算で3土俵購入されました。

## Design Our 杉並区委員会

多くのOB・OG諸兄姉の皆様が長年コツコツと築き上げてきた関係諸団体との関係を大切にしていきたいと思えます。現役メンバーが杉並区内で新しい事業をする場合に、行政などがヒアリングなど快く引き受けてくださるのは、多くのOB・OG諸兄姉の皆様のおかげです。現役メンバー一人ひとりがJC活動を通じ、知識・能力・人間力を高めることが、結果的に社会を1ミリでも変え、社会に貢献することになると信じています。

また長年、杉並区委員会が課題と抱える拡大についても長年20名を超えることがなかったため、拡大についてしっかり向き合い取り組んでもらいたいと思えます。昨今は、SNSで活動を誰でも残せる機会があります。未来のメンバーのためにも、杉並区委員会の活動をしっかり記録してほしいと思えます。アカウントがあっても更新していなければ、関係諸団体や未来の新メンバーからしたら、動いていなかったと同じです。コツコツ続けることにより、杉並区委員会の賛同者やメンバーは、おのずと増え、拡大にも繋がります。

55周年、60周年と杉並区委員会が守ってきた誇りやプレゼンス、伝統を紡ぎ、100年続くよう、そして、杉並区委員会に関わる全ての方のさらなる発展を願います。



▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 江戸川区委員会

2024年度スローガン  
基本から考え、  
限界を超える



2024年度登録メンバー数 / 7名  
過去最高登録メンバー数 / 49名(1988年) 第50代委員長 岡田幸夫



## 江戸川区委員会について

江戸川区委員会の歴史を振り返ると、20年ほど前はメンバー数が多く30名程度が在籍しておりとても活気があったと伺いました。

まだSNS等が存在しなかったため、二次会が非常に重要なコミュニケーションの場として位置づけられており委員会では意見が対立したメンバー同士でもお酒を酌み交わしリラックスした雰囲気の中で意見交換をしながら、親睦を深めていたそうです。

また、当時の江戸川区委員会では、JCメンバーとその家族と一緒に旅行することがよくありました。これは、日頃の活動に対する感謝を表すだけでなく、家族からの理解と協力をお願いするための重要なイベントでした。旅行先では、家族同士の交流も深まり、メンバー同士の絆が一層強くなったと伺いました。

現在の江戸川区委員会では旅行などの計画まで話ができておりませんが、メンバー数が減少しているため、一人ひとりとの交流がより密接で深いものとなっています。

少人数のため、メンバー同士がより親密な関係を築きやすくなり、JCの活動以外の場面でも親交を深めることができるようになってるのが現在の江戸川区委員会の一つの特徴です。そして二次会では昔と変わらず、事業の話や進め方そして、各々のビジネスの話をするなど、親睦の深め方は今も昔も変わりなく委員会運営同様、コミュニケーションの基本となっております。

昔は大人数での交流が主流でしたが、現在は少人数での深い交流が主流となり、関わり方は少し変わりましたが、それぞれ



の時代・規模に適合するような形でメンバー間の信頼関係が築かれていると感じました。これからも、江戸川区委員会は時代の変化に柔軟に対応しながら、メンバー同士の絆を大切にしていきたいと思っています。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

江戸川区委員会の代表的な運動は社会体験実習です。この運動は2000年から始まった中学生に職業体験の機会を提供する事業で、江戸川区委員会が主導し、地域の企業や団体と連携して実施した事業でした。事業では中学生に、さまざまな職業の現場へ訪問し、実際の業務を体験することで、将来のキャリア選択に役立つ貴重な経験を積むことができる内容になっており、実際の職場での体験を通じて、社会の仕組みや働くことの意義を理解してもらいました。

事業当時はJCのメンバーが受け入れ先を探し、学校と協力して中学生に実際の職場での体験の提供を行おうとしていたがなかなか受け入れ先が見つからず、JCメンバーの繋がりの中で実習先を見つけたといった苦労もあったそうです。

現在では、このプログラムは江戸川区が継続して実施しており、地域全体で中学生の成長を支援する取り組みとして定着しております。

## Design Our 江戸川区委員会

地域に住み暮らす人々の困っていることや地域課題を洗い出し、解決に向けて取り組むことができる委員会にしていきたいと考えています。

地域住民の声を積極的に聞き取り、日常生活で直面する問題や不便さを把握し、それに対する具体的な解決策をJCとして提案・実行することが重要だと考えております。高齢者の孤立問題や子育て世代の支援、交通安全対策、環境保護など、多岐にわたる課題がありますが、僕はJCの行う意義のあるものを進めていかなければいけないと考えております。

また、江戸川区の魅力を他の地域にも広く伝え、さらなる発展を目指す。そのためには何よりも地域団体が一体となって江戸川区の魅力を発信し、地域の発展に寄与することができるような仕組み作りも重要です。地域の魅力を再発見し、それを共有することで、地域全体の一体感が生まれ、江戸川区民そして何より事業を行なった江戸川区委員会への誇りや愛着が深まります。このように連鎖的な反応により、地域の発展に向けた取り組みが一層推進されると期待しております。このように、地域課題の解決と江戸川区の魅力発信を両立させることで、地域全体の発展を目指していきたいと考えています。江戸川区がさらに魅力的で住みやすい地域となるよう、委員会として積極的に取り組んでいく所存です。



▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら



# 足立区委員会

2024年度スローガン  
人と人との繋がり  
こそ最高の財産だ！



2024年度登録メンバー数 / 14名  
過去最高登録メンバー数 / 45名(1990年) 第50代委員長 小貫隆介



## 足立区委員会について

昔の足立区委員会はとても活発な委員会だったとのこと。どのように活発だったかという委員会の際や、委員会外でも深夜遅くまで熱い意見を言い合い、より良い事業づくりを行っていたそうです。足立区委員会のOBOGの皆様は現役メンバーにとって欠かせない存在であります。何かあればすぐに相談に乗っていただき的確なアドバイスをいただけます。時には厳しい意見をいただく事もありますが、常に現役メンバーのことを思って接して下さりとても感謝しております。

現在の足立区委員会の雰囲気は一言でいうと**最高の家族**です。メンバーは14名と多くはありませんが、1人も欠けることがなく仲がよいのが今の足立区委員会の特徴です。JCの活動以外でもプライベートで出かけたり、ご飯を食べたりお酒を飲んだり家族のような付き合いをしています。

今後もメンバーの卒業や入会がありますが今の雰囲気がずっと続くことを望んでいます。そのため、オプザーバーの方との事前交流の機会をとても大切にしています。今の足立区委員会の雰囲気を感じていただき、笑顔で入会していただける委員会を継続していきます。



## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

足立区委員会の代表的な地区事業は**わんぱく相撲**です。過去47回開催されてきた本大会は、多くの先輩の想いと、多くのわんぱく力士達の名勝負によってこれまで続いてきました。過去様々な会場で大会を行い、どのように行えば運営がより良くなるか、そして多くの人に参加していただけるかなど試行錯誤

を繰り返してきました。その結果現在では300名ほどの参加者が集まり、数多くの歴戦が足立区大会では繰り広げられています。昨年2023年大会では小学5年生男子の部で足立区大会を優勝したわんぱく力士がそのまま東京都大会、そして全国大会も優勝し横綱となりました。足立区初の快挙です。本年2024年大会も全国大会で優勝し「日本で一番は足立区!」と大きな声で叫びたいのでメンバー全員で支えていきます。足立区の人口を考えるともっと多くのわんぱく力士に参加してもらえるポテンシャルを秘めています。今後も足立区から多くの力士を輩出できるようにメンバー力を合わせ、永年続く事業として盛り上げていきたいです。



## Design Our 足立区委員会

本年、足立区委員会は50周年を迎えました。1990年は45名の在籍があったときとても驚きました。現在14名のメンバーで運営しておりますが、今後は一人でも多くのメンバーを迎え入れ大きくしていきたいと考えます。

55周年を迎える頃には現在在籍しているメンバーの半分以上が卒業となります。今の楽しい足立区委員会の雰囲気を保ちつつ、進化していくためにどのようなことを意識していくかという【常に相手のことを考える事】が重要だと思います。年齢や性別に業種など、様々なメンバーで構成されている当団体ではそれぞれ考えていることも感じていることも違います。その中で自分の意見や感情を前面に出し続けているのは対立や亀裂を生むこととなります。時には意見をぶつけ合うことも大切だと思いますが、それは相手のことを思って意見しなくては人としても団体としても成長できません。

今後の足立区委員会のメンバーが互いを思いやり切磋琢磨していくことができれば、60周年も100周年も最高の委員会として続いていくと思います。



▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら



# 大田区委員会

2024年度スローガン  
**選択は君次第だ！**



2024年度登録メンバー数 / 34名  
 過去最高登録メンバー数 / 58名(1988年) 第50代委員長 荻野 稔



## 大田区委員会について

かつての大田区委員会は人数も少なく、東京本会の情報もあまり入らないような時期もあったと聞いております。今は、少し減ってしまいましたが40名を超える時期もあり、多くのメンバーでにぎわっています。地区の雰囲気としては下町の大田区の雰囲気に合ったようなメンバーが多く、昭和の香りをまだ残すような雰囲気もあるのではないかと思います。懇親会で特に元気を発揮するメンバーが多いです。地区委員会では、メンバー同士の盛り上がりを大切にしています。どこまで行ってもJCは仕事ではないのでどうやって盛り上がるか、参加していくのかというのはどこの地区でも課題だとは思いますが、特にスタッフ側が考えなければならないことです。メンバーにとどけるだけ参加することで得られるメリット、仲間との出会いや先輩達との出会いの機会、行政などの連携、意見交換ができる場の提供といった価値を委員のメンバーに提供したいと考えています。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

過去の代表的な事業と言えば、第54代理事長でもある平将明先輩が第26代委員長の時に始め、今はJCの代名詞の一つともなった公開討論会があるでしょう。この記念誌が発行される頃にはすでに結果は出ておりますが、2024年に開催される東京都知事選挙の公開討論会をはじめ、国政、首長、都道府県議会議員選挙と日本や地域の未来、生活を左右する大切な選挙のタイミングで、青年会議所の名前を聞かないときはありません。東京だけでなく全国のLOMで公開討論会は行われており、これは各地に会議所のある青年会議所だからこそ出来ている運動だと言わざるを得ません。大田区からも先輩たちが作り上げてきた事業のように、社会にインパクトを与える運動を実施していきたいと考えております。



## Design Our 大田区委員会

40歳で卒業という関係上、この記念誌の作成に携わった方も多くは55周年には既に卒業されているでしょう。この先の周年が行われる中では現在のメンバーの方もOBとして、多く参加をされるかと思えます。青年会議所が地域にとってどういう存在か、またどういう役割が期待されるかは時代によっても変化していくかと思えますが、社会の先頭にたつて、失敗をしても良いので行政よりも前に行く。新しいことや社会に求められていることに積極的に挑戦していく地区委員会になってほしいなと考えます。この文章を作成しているのは、現委員長であります。私自身、委員長になる前はJCは行政のカウンターパート、運動を通して行政と連携して社会をよくしていこうと考えておりましたが、先輩方からそれは違うと教わりました。周年に参加した時に「今の地区委員会はこんなことをやっているんだ」「あのテーマにはこういう解決のためのアプローチがあったのか」と、OBが思えるような地区委員会になってくれたら本当に嬉しいです。



▲ 歴代委員長対談  
 ▲ 対談フル動画はこちら

# 新宿区委員会

2024年度スローガン  
**温故知新  
 ~伝統を取り入れ  
 未来を切り開いていく~**



2024年度登録メンバー数 / 40名  
 過去最高登録メンバー数 / 138名(1988年) 第50代委員長 塚越 一太郎



## 新宿区委員会について

昔から新宿区委員会はONとOFFのメリハリがしっかりしている委員会です。委員会などの設営等締めるべきところはしっかりやり、懇親会などでは、皆で思い切り騒いで懇親を深めています。毎年理事会構成メンバーや多くの出向者を輩出しているのも特徴です。また新宿区は、約40万人の区民のうち、1割以上が外国人であることから、地区事業では国際事業を取り入れることが多く、国際都市である東京都新宿区から多くの地域にインパクトを残せる事業を構築してまいりました。

現在の新宿区委員会は地区委員会設立から50周年を迎えるにあたり、メンバーの拡大と拡充に力を入れています。メンバーやOBOGの紹介でオブザーバーを増やし、しっかりとJCの理念を共有し入会をしてもらうように動いています。また本年度は委員会後にメンバーの仕事紹介や勉強会を多く取り入れメンバー同士の交流を図っています。

地区委員会で大切にしていることはJCを楽しみながら上手く活用していくことです。JCは様々な機会を提供してくれます。多くのメンバーを巻き込んで40歳までの限らない機会を楽しんでいってほしいです。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

新宿区委員会の代表的な地区事業に新宿イメージアッププロジェクトがあります。これは平成25年度新宿区政モニターアンケートにて歌舞伎町に「行きたい」人は減少傾向にあるという結果が出ており、理由として「客引きが多く、1人で歩くには怖い」(30.6%)との結果や、客引きの路上での態度の悪さ、客引き利用者の被害申告の増加の実態からすると、イメージ悪化の原因が客引きにあることが判明しました。

新宿区、新宿警察署、商店街振興組合と連携してゆるキャラ(ぼったくりす)を使ったパレードをしたり、客引き問題の認知度向上のためのフォーラムを開催したり、新宿東口商店街の



飲食店に客引きしない宣言のステッカーを貼ってもらう運動をしたところ、新宿区の条例が一部改正され客引きに対する罰則規定が厳しくなりました。また当時の運動で制作したぼったくりイヤイヤ音頭は、歌舞伎町だけでなく区を超えて墨田区の錦糸町でも流れていました。また2018年のASPAC鹿児島大会では褒賞を獲得することができ、新宿区委員会の代表的な事業となりました。

## Design Our 新宿区委員会

本年度の50周年を迎えた新宿区委員会のスローガンは温故知新~伝統を取り入れ未来を切り開いていく~です。これは今まで積み上げてきた新宿区委員会の良い所はしっかり残しながら、新しい良い物は取り入れていこうという意味を込めています。その時代その時代に必要とされていることをしっかり調査して会議の中で多くの意見を出し合い、しっかりと実行した後、なにが良かったのか悪かったのかを検証をして、社会が1ミリでも良くなるよう活動を続けてほしいと思います。

また新宿区委員会がずっと大切にしているONとOFFのメリハリもしっかり継承していってほしいです。会議の運営や拡大、各種大会等の出席率の高さなど他の地区委員会の模範となれるような委員会でありつつ懇親会になれば一定の節度を持ちながら仲良く楽しんでほしいです。JCは様々な機会の提供があります。本当に忙しい20代30代の時代を40歳までという限りある時間の中でJCを思いっきり使い倒していってほしいと思います。



▲ 歴代委員長対談  
 ▲ 対談フル動画はこちら

# 台東区委員会

2024年度スローガン  
共始共創



2024年度登録メンバー数／27名  
過去最高登録メンバー数／131名(1988年) 第50代委員長 大石 怜史



## 台東区委員会について

1400年の歴史を持つ浅草寺を有する浅草と、交通の要所であり北の玄関口と称される上野駅を持つ台東区は、観光業を中心とした商圏が広がっており、国内外様々な文化や背景を持つ人が入り混じる地域であります。多様な価値観を持つ人が多く集う地域ではありますが、一方で下町文化が強く根付き歴史や伝統を非常に大切にしている街でもあります。

そんな台東区だからこそ、地区委員会のメンバー内訳は台東区に住み暮らすもしくは務めている人で構成されていることが多く、地元地域に密着した活動や発言が多くみられる委員会でもあります。

### 【いま、あらためて台東区のために何ができるのか】

今こうして町のために台東区のために活動することが出来るのは、今までの50年の歴史の中で台東区委員会の先輩諸兄弟が紡いでくださった地域の中の皆様との関係と、積み重ね取り組んでくださった様々な事業があるからだと考えます。

常に前を向いて、現状に甘んじることなく、その時々地域課題や社会課題に真摯に向き合い、事業を通して様々な団体の方と連携し運動を展開してきてくださったからだと考えます。

だからこそ、歴史伝統文化を重んじ大切にしながらも、社会情勢に合わせた事業構築、運動展開をしていける事。現役の我々の活動に対して応援して下さる方が多くいること。今の環境に感謝を忘れず、刺激し合える委員会であることだと考えます。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

### 【桜橋・わんぱくトライアスロン】

1988年より30年以上継続している、台東区委員会の代表的な地区事業です。現在も主催を実行委員会に移管し、名称使用事業として継続して開催をしています。

開催の背景として、今は完璧に整備されて綺麗になった隅田

川河川敷ですが、当時は治安は悪く劣悪な環境であったとのこと。また23区内最小面積である台東区は、子どもたちが安心して遊ぶ環境が不足していることから、運動機会も減少傾向でありました。上記の理由から当時の区長より「隅田川河川敷の美化と環境整備および子どもたちへの健全なる運動機会を提供してほしい」旨の要請を受け、隅田川河川敷を開催場所としたスポーツ大会を計画することになります。



大会開催に向けて競技を選定するため  
①隅田川河川敷で開催する事  
②可能な限り広い面積を活用する事  
③プール設備を活用する事  
の3点から、競技としてはスイム・バイク・ランの3要素を持つトライアスロンが適当であるとなりました。  
対象は区内に住み暮らす小学生とし、競技実施、事業開催に際して様々な団体の方々に協力を要請することとなります。現在、協力団体10以上、一般参加者1,000名以上の台東区を代表するスポーツ事業の一つとなっており、区内の関係団体との連携をより強固なものにするともに、区内に住み暮らす子どもたちやその保護者の方に向けて、台東区委員会の認知を広める一助となっております。

## Design Our 台東区委員会

### 【魅力あふれる人の集いし台東区委員会】

次の50年を作り上げるのは現存する私たち現役メンバーではなく、これから青年会議所の門戸を叩く次の世代の人々つまり新たなメンバーであります。青年会議所の特徴である40歳での卒業や単年度制は健全な新陳代謝や継続的な循環を生み出す一方で、一人ひとりが魅力的でなければ、組織として私たちが地域の皆様から支持され続けることは無いのです。

なのでこの先55周年、60周年、100周年を見据えて、私たち台東区委員会は、「魅力あふれる人が集う組織」になることを目指すべきと考えます。

魅力ある組織には様々な人が集い、人が集えば多様な価値観から新たな意見が生まれ、その意見からよりよい社会を目指すべく行動が起こります。そしてその行動は対外を巻き込んだ運動へと昇華していきます。集いし人たちが互いに刺激し高め合い、その様子を内外的に発信伝播することで、組織としての魅力がより効果的に浸透していきます。会での活動・運動に楽しそうに取り組んでいる姿こそが、一人ひとりの魅力につながると信じています。その結果、これからの50年を共に創るための多くの新たなメンバーが門戸を叩き、私を含めた台東区委員会のメンバー一人ひとりが次なる世代への歩みを共に始める、魅力あふれる姿を体現することを目指します。




▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 目黒区委員会

2024年度スローガン  
人と人の  
繋がりを軸に



2024年度登録メンバー数／11名  
過去最高登録メンバー数／68名(1988年) 第50代委員長 橋本 祥平



## 目黒区委員会について

目黒区委員会は地域として法人数が他地区よりも少ないため、歴史的に人数多い委員会とはいえないと思います。しかしながら**少数精鋭**の名の通り、一人ひとりが主体性を持ち地区事業、名称使用事業などに尽力をしております。また委員会を卒業したOBが名称使用事業の運営に携わることで、事業としての継続性を維持しています。代表的なものがわんぱく相撲大会であり、JCはあくまでも事務局として全体の運営管理を行うのみで、実質的な担い手はOB等が在籍している各地域団体で構成されています。名称使用事業として大事な部分である**地域への引継ぎ**がしっかりとなされているのが、目黒区委員会としての特徴の1つかと思えます。また地区委員会として大切にしているのは**行政との会話**です。事業の実施に関しては行政との連携は不可欠であり、また事業の実施背景などの裏付けは行政の持っているデータなどの情報が必要です。地区には何名かの議員がおり、区長もOBということもあり委員会として行政との密な連携というのは大切にしているところであると考えています。



## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

代表的な地区事業は**グローバルフェスティバル**です。2021年に継続事業として1回目を行い、2023年までの最終年まで3回実施することができました。実施の背景としては、目黒区の人口統計をみるとコロナ前において外国人人口が急増しており、共生社会の実現が区として重要政策であると指針を示していました。しかしながら現実として目黒区内の外国人が地域に馴染んでいるのかという疑問があり、また対外国人政策について目黒区の現状をみると不十分であると我々は考えました。そこで、地区事業として**外国人のコミュニティ形成**を委員会として実施していくという目的のもと始めた事業となります。1回目はSDGsのカードゲームをコミュニケーションツールとして活用し、実際に目黒区内に住む外国人住民と日本人の交流会を開催いたしました。しかしながらコミュニティの創出は継続的にまた高頻度で行う必要があると感じ、第2回目は外国人労働者が日本で働きやすい環境を作る支援をすることで、区内の中小企業を中心に集まっただき、厚生労働省を講師に外国人労働者の就労支援について制度理解や助成制度の活用などセミナーを実施しました。最終年度の3年目は目黒区内にある東京インドネシア共和国学校に舞台を移し、外国人学校の防災意識の向上と、近隣団体との防災における連携体制の構築に努めました。

## Design Our 目黒区委員会

目黒区委員会として今後の展望については、まず委員会が存続していくためには我々が活動する土台である目黒区が繁栄していかなければならないと考えます。そのためには地区事業、そして現在も継続している名称使用事業などでしっかりと目黒区にメリットを提供していくことが重要だと考えます。また目黒区は他地区に比べ少人数の委員会です。**拡大**については委員会として優先度が高い取り組みではありますが、拡充が今後の目黒区委員会には必要であると考えます。人数が少ない分1人が担う役割は大きく、また多くの関係団体と折衝する機会もあります。その時に担当のメンバーがしっかりと青年会議所目黒区委員会のいちメンバーとして**恥ずかしくない行動**を取れるか、これは継続的な目黒区での活動を行っていく上で重要なことであると考えています。いずれにせよ地域団体とかかわりが深いのが目黒区委員会の特徴だと考えていますので、我々としては現場に出て1つ1つのカウンターパートナーと顔の見える形で対話を続けていきたいです。




▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 渋谷区委員会

2024年度スローガン

**守破離**  
～新たな渋谷を  
デザインする～



2024年度登録メンバー数 / 30名  
過去最高登録メンバー数 / 120名(1988年) 第50代委員長 伊是名千晶



## 渋谷区委員会について

渋谷区委員会は、昔も今も女性の在籍率が高く、また職業も立場もバラバラです。そして渋谷区委員会の雰囲気はとても良く、そのため渋谷区の在住、在勤じゃないメンバーも多く在籍しております。私は2012年に東京青年会議所へ入会し、渋谷区委員会を選びました。その時に感じた印象は「しっかりやるところはやる、そして真剣にバカをする」でした。長谷部先輩に昔の委員会の雰囲気をお伺いした際は、メンバー同士が仲が良すぎて、団結力があり、23地区委員会の中では尖っている委員会だったと聞きました。私が先輩諸兄姉と一緒に活動してきた中で、伝承するべき、そして大切にしている事は、「居心地の良さ」です。渋谷区委員会は、東京青年会議所以外で活躍しているメンバーが多く頻りに委員会にこられない方、また、仕事や子育ての事情で来れない方もいます。私の想いとしては、委員会にあまり来れないメンバーでも、いつでも安心して帰る事ができる場所であり続けること、そして委員会に来た際には全力で迎え入れることを強く心がけています。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

大館青年会議所との共同事業で、大館と渋谷の子どもたちとの交流事業「通称：渋谷大館グリーンツーリズム」が代表的です。もともと大館青年会議所と渋谷区委員会は、ハチ公がきっかけで40年以上交流しています。そして両青年会議所の交流がきっかけで、行政間の交流が始まり、2001年1月24日に「渋谷区及び大館市の災害時における相互応援に関する協定」を締結し、この締結を契機に渋谷区内の小中学校の給食に大館産のお米である「あきたこまち」が使用されるようになりました。その他にも、大館市と渋谷区でハチ公100周年記念祭の開催、ハチ公前広場のシンボルであった青ガエルを大館市のハチ公の里に設置など、渋谷区と大館市の関係はより深くなっています。渋谷区委員会の先輩諸兄姉がきっかけを作り、それが今なお



社会にインパクトを与え続けています。そうした理由から、渋谷大館グリーンツーリズムは社会変革を起こした渋谷区委員会を代表する事業です。

## Design Our 渋谷区委員会

卒業する身となりますので、どのような地区委員会にしていきたいかという展望はありませんが、私も先輩諸兄姉にして頂いたように、時代に合わせた委員会にしていってもらえるといいと思います。今年掲げたスローガンの「守破離」は、そういうメッセージを込めています。JCはこうだから、とか、今までこうしてきたから、とか、今までしてきたことを当たり前と思わず、大切にしている部分は大切に、変えるべきところはそれぞれの時代に合わせて率先して変えていき、渋谷らしく最先端をいってほしいと思います。渋谷区委員会の先輩諸兄姉は、「口は出さず金を出す」がモットーになりますので、私もそちら側に行った際には、快くお金を出せる様に準備しますので、今と同様、先輩にも頼る事ができる仲のいい委員会である事を願います。

▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 練馬区委員会

2024年度スローガン

**原点回帰**  
～未来に繋ぐ新たな練馬へ～



2024年度登録メンバー数 / 15名  
過去最高登録メンバー数 / 57名(1988年) 第49代委員長 庄司剛英



## 練馬区委員会について

かつて練馬区委員会では『意見・質問をしないメンバーは委員会出席に値しない』と厳しく指導されるほど白熱な議論が交わされ、理事会に引けを取らない委員会運営がされてきました。その熱い仲間意識は、絆の強い委員会の礎でした。さらに、オブザーバーや来賓、他地区メンバーの方々に対する『しなやかな姿勢』での礼節も心がけられていました。

昨年、JCライフを長く送られたメンバーの一言卒業を迎え、歴の浅いスタッフを中心に当委員会は構成されるようになりました。

本年度は、20代のメンバーが多く入会する傾向にあります。経営者だけではなく会社員などのメンバーといったオブザーバーも増加傾向にあります。

委員会では、新たな顔ぶれに新鮮な価値観や意見が多く出されるようになったため、今までとは異なる委員会のカラーが発色できるのではないかと考えています。

ここに、先輩諸兄姉から受け継いだ、能動的かつ積極的に行動できるメンバーを育成するための『機会の提供』に意識を持って私たちが取り組むことで、練馬区委員会の更なる発展を目指し、鋭意取り組んでいます。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

練馬区委員会はこれまで時代に即した事業を展開してまいりましたが、代表的事業といえば『わんぱく相撲練馬区大会』です。本年度は第48回大会を迎え、コロナ禍が明け、観戦エリアも拡大することで盛会となりました。第42回大会より主催を委員会から実行委員会へと移管されました。代々受け継がれてきた大会も出場児童は400名を越え、運営に携わっていただく地域団体も年々増加し、運営スタッフも200名近い規模となりました。

ここまでの規模になるには先輩のレガシーはもとより、大変なご縁もありました。大会会場としている光が丘地域では、日

本最大のモンゴル祭りである『ハワリンバヤル』が開催されています。こちらの団体とご縁をいただき、歴代横綱から激励のメッセージをいただくほか、大会の運営協力を相互に行うなどの交流も始まりました。

さらに他の地域団体のご協力により著名な格闘家の方をお招きし、子どもたちとの交流の機会を提供いただきました。このような機会は、練馬区委員会にとっても活動の幅とコネクションが拡大するので、大変有難く思います。

そのような様々なご支援により、わんぱく相撲練馬区大会に来場した保護者からは子どもだけでなく、大人にとっても大変貴重な機会であると感じていただいております。引き続き地域の皆さまと共創し、このご縁を後世に繋いでいくことが私のJCワークと捉えています。

## Design Our 練馬区委員会

2025年度を以て、練馬区委員会は50周年となり、半世紀を迎えます。

現在は、入会の浅いメンバーが多い委員会となりました。来年度の節目に向けて、本年度は「原点回帰～未来に繋ぐ新たな練馬へ～」のスローガンを設定しました。

節目を迎えるにあたり、練馬区委員会の歴史を改めて振り返り、これまでに紡いできた伝統や文化を理解することが重要と思います。思想や価値観は常に変化しますが、先輩諸兄姉が紡いでこられた想いというのは色褪せるものではないと捉えているからです。

その想いを受け止め、基本的な事を学びつつ、東京青年会議所のスケールメリットを活かし、仲間と共に笑いや涙もありながらも寄り沿った活動をし、時代に合わせた委員会運営をデザインします。さらに練馬区内に好循環をもたらすには、私たちだけではなく自治体や地域団体との連携はもとより未来予想図を意識した事業構築も必要です。その展開により練馬区委員会に対し賛同や支援の輪が広がっていくことと思います。

現役世代である私たちの世代の活躍によって練馬区委員会の新たな60周年、100周年へと繋がっていくことと思います。



▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 葛飾区委員会

2024年度スローガン  
**勇気を持って  
決断しよう**



2024年度登録メンバー数／5名  
過去最高登録メンバー数／38名(1988年) 第49代委員長 米山一尋



## 葛飾区委員会について

葛飾区委員会は、いつの時代も他地区に比べ人数は少なめ、**下町の空気感でアットホーム、とてもあたたかい委員会**だったと伺っています。先輩諸兄姉は、地元コミュニティを支える担い手として、長年第一線で活躍していらっしゃいます。現役に対しては「思いを尊重して見守る」のがOB会の伝統です。

今の葛飾区委員会も人数が5名と少なく、**行事には、全員野球&全力投球**で臨みます。今も昔も葛飾区外からの参画は珍しくなく、現在も区外メンバーが過半数、区内在住の委員長は4年ぶり。区や区内団体との連携も都度協力し合っています。片道90分以上、遠さに負けず葛飾へ通うメンバーもいる熱い委員会です。人数が少なくてもLOM外への出向者もあり、LOM内出向は全員が登録。機会の提供が多く、濃い経験を積める、**少数精鋭委員会**です。

全員が会員歴2年未満（22入会と23入会）のため**とてもフレッシュな雰囲気**で、直前委員長・理事やOB、他地区の皆様など、本当にたくさんの方々に支えていただき、御縁をいただきながら活動できる環境です。

メンバーの様子から大切にしていることを改めて言葉にすると、多くの方々とつながりと、1回1回の活動、メリハリを付けやり切ることとともに、「持続可能な活動にする」ことにもこだわりを感じます。それは今年のスローガン「**勇気を持って決断しよう**」にも現れています。限られた時間だからこそ、その中でJCも人生も勇気を持って決断し、やりきっていくという姿勢が、葛飾区委員会なのだと思います。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

葛飾区委員会の代表的な地区事業として、「**かつしかの未来へつなぐ**」という**子どもたちの職業体験・事業継承の事業**があります。これは、葛飾区で電気工事業を営むメンバー（当時）が持っていた葛飾区内の事業者が求人困っているという課題



感、また、区の主要産業である「製造業」が減っている現実、新しく移り住んできた区民や子どもたちは地域の産業を知らない・関心が薄い、等のことから、それらの解決のために、これから社会に出ていく**子どもたちに、地域産業の魅力や良さを知ってもらい、将来の選択肢にしてほしい**という思いで、企画されました。前年度から内容の構築を始め、区とも連携し、アドバイスをいただき、小学4,5,6年生を対象に**学校の授業の一環として**行われる事業となりました。体育館にブースを設け、電気工事・板金・ビス作り・ゴム作りなどを子どもたちに体験してもらいました。多くの方を巻き込み、内容のブラッシュアップを重ね、みんなが葛飾の産業のため、葛飾区委員会のために邁進した結果、**優秀事業賞と優秀地区委員会賞をダブル受賞**。翌年は対象を中学生に移して職業体験事業を実施し、これも好評だったことから、コロナを経て外部移管し、現在でも続く、商工会議所による中学校への出前授業へとつながっています。3年目は事業実施できませんでしたが、高校生へと更に対象を移し、「職業の選択肢として」具体的なマッチングまで進めて行く構想があった、大きな事業でした。

## Design Our 葛飾区委員会

葛飾区委員会は、先輩諸兄姉もそうであったように、人数の多寡によらず、いつの時代も、東京JC内部で「**葛飾ここにあり**」、地域の方々からも「**JCここにあり**」と言われるような、**キラリと光る存在**でありたいと思います。

そのために、まずは拡大して人数を増やすとともに、メンバーに活動を楽しむ機会や成長できる機会を多く提供して、地区委員会としての足元を盤石にしていきたい、また、していく必要があるとも思います。

行政区と対応した形、また地域への愛着を持ちやすい、「地区委員会」の良さが十分に生きるよう、メンバー一人ひとりがJAYCEEとして立ち、JCを楽しみ、区内在住在勤を問わず活動を通して葛飾に対する愛着を深め、**地元に頼られる、地域にしっかりと根を下ろした団体**であり続けたいと思います。

100周年を迎える時には、先輩諸兄姉から受け継いだ**下町の義理人情のあたたかさ**をまた次の時代にも変わらず掲げて行くとともに、その時代のメンバーの豊かな個性を存分に発揮して活躍し、時代に合った活動の形を自ら描いて、**次の時代の「葛飾」ブランド**を築いて行っていただけることを、楽しみにしております。



▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら



# 品川区委員会

2024年度スローガン  
**原点回帰**



2024年度登録メンバー数／19名  
過去最高登録メンバー数／92名(1988年) 第50代委員長 宇賀神達也



## 品川区委員会について

ここ数年は20名程度で推移している品川区委員会ですが、過去には50名を超えるメンバーが在籍していた時期もあれば、10名にも満たない時期もあり、50年の歴史の中でメンバー数に大きな変動があったと聞いています。また所属するメンバーは、かつては品川区内の名立たる企業の経営者（および経営後継者）が多く、青年会議所を卒業した後も、様々な団体で活躍されている方が沢山いらっしゃいます。そこで共通して見えるのは、地元である品川を盛り上げていこう、という熱量です。

現在では、品川区委員会に所属するメンバーの属性は多岐に渡り、在住・在勤でないメンバーも増えており、地元のため・地域のために活動する動機を持ち辛い状況ではありません。しかしながら、皆が何らかの縁があって品川区委員会に所属しています。縁とはすなわち、歴史です。先輩方が築き上げてきた品川区委員会の歴史と伝統に思いを馳せ、その想いを継承し、次の世代へ繋いでいくこと。これが、品川区委員会において大切にしている文化です。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

品川区委員会では、時代の変遷に伴って様々な事業を展開してきました。それらの事業はどれも大変意義のあるもので、その中で代表的なものを挙げるのは難しいのですが、ここでは歴代委員長対談で話題に出た「**しながわ寺子屋**」を挙げたいと思います。品川区周辺に存在する企業の社員や商店の店員が品川区内の中学校に赴き、市民課の授業の中でその会社や商店がどのように社会に貢献しているかを伝えると同時に、仕事とは何かについて生徒と語り合う事業です。2003年より品川区委員会が主催で実施し、その後は未来協推進機構へと移管しました。本事業が立ち上がった2003年は、インターネットが普及し始め、様々な情報を個人が手軽に得られるようになりました。その反面として、正しい情報を見極める、ネットリテラシーが求めら



れる時代に入ったとも言えます。そのような時代背景の中、品川区内で経済活動を行っている企業・商店の方から、子どもたちに向けてリアルな声を届けていただく。本事業は、キャリア教育の先駆けのような事業と言えます。現在においては高い関心を集めているキャリア教育という分野を、20年以上も前に着目して事業を構築された先輩方の慧眼には驚かされます。

## Design Our 品川区委員会

時代が変わり、社会課題も変わり、所属メンバーも変わりゆく中で、変わることはないものが1つだけあります。それは、今まで諸先輩方が築いてきた**歴史と伝統**です。「東京青年会議所品川区委員会」、あるいは「JC」と名乗るだけで、行政や関係団体の方々にすぐにアクセスできる。それだけのブランドを持った団体で活動できることを私自身も誇りに思いますし、それを次の世代に繋いでいかなければならないと感じております。

所属するメンバーの属性が時代とともに変遷していく中、青年会議所で活動する動機も多様性に富んでおります。メンバーそれぞれの価値観は尊重すべきものと考えておりますが、品川区委員会のブランドを守るという部分だけは、どんな時もメンバー全員に浸透させていこうと思います。そして、メンバーが誇りを持って活動できるように、また卒業後も品川区委員会で活動していたことを誇りに思えるように、さらなるブランド力の向上に取り組んで参ります。



▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら



# 北区委員会

2024年度スローガン  
承継と継承



2024年度登録メンバー数 / 20名  
過去最高登録メンバー数 / 58名(1988年) 第50代委員長 溝口遼太



## 北区委員会について

北区委員会50周年の節目に際し、過去の記録や先輩諸兄姉のお話を伺うと歴代北区委員会の特色は「熱い」という言葉で括られると考えます。インターネットも普及していない時代に本気で自分たちの住み暮らす街の行く末を考え毎日ひざを突き合わせ議論していたそうです。その中でも印象的なのが、自分たちが社会に変革を起こすためには地域の首長・国会議員・地域振興の要職・区議をJC出身者で担う必要があると考え、現在北区長・衆参議員・観光協会局長・地域各経済団体の代表・数多くの区議をOBOGの方が務められています。

この地域社会の要職を先輩諸兄姉が担っていただいていることで我々現役が成し遂げたい新社会システム構築に必要な助言・規制緩和・運動支援などが受けられています。

現在の北区委員会では人数の面では減少の一途を辿っていましたが、近年では純増傾向にあり先輩諸兄姉の想いを継ぎシビックプライドを持ったメンバーが多いのが特徴です。20名と決して大所帯ではないものの個々の熱量が高いのでJC運動へのコミット率も高い傾向にあります。今後は北区委員会伝統の地域愛を持ちつつ、東京青年会議所のイチ委員会であることも意識し、東京青年会議所要職、出向先での要職を務められるメンバーの育成に力を注ぎFrom北区、北区から東京へ、東京から日本へ、日本から世界へ活躍の場を広げるメンバーを輩出していきます。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

事業の北区といわれてきた北区委員会では多くの代表事業が存在していますが、中でも地域に最も根付いている事業は「北区秋のフェスティバル2011 ～鉄人シェフNo.1決定戦と夢花火～」こちらは2011年の地区事業として開催されたのですが、2011年に発生した東日本大震災に傷が癒えず暗い雰囲気が漂っていた地域を元気付けるという目的で開催された事業です。個人飲食店の多い北区の特色を活かしNo.1グルメを決定するフェスの開催及び、近隣地区では開催されていたものの北区では開催されていなかった花火1000発の打ち上げを行いました。開催にあたり行政からの協力は得られず申請・打ち上げ場所の確

保・莫大な費用を賄う協賛金の獲得に尽力され花火が打ちあがった瞬間は北区民に大きな感動を与えたそうです。現在JC事業から始まった花火の打ち上げは北区花火大会と名を変え、北区民の有志で運営される北区花火大会実行委員会が主催し2023年に節目の10回を迎えました。他の花火大会とは違い運営は民間だけで行われ、企画も他と差別化し現在では日本でも屈指の花火大会として注目を浴びています。

近年においても昨年開催、健康経営推進を目的とした地区事業「SDGs体験MATSURI～Well-being ver～」では企業と市民の啓発及び大規模な意識調査を行い、北区行政へ提言書の提出を行いました。その内容は北区議会でも大いに取り上げられ、提言書をもとにSDGs推進企業を対象としたSDGs融資制度の成立・行政主導の企業向け健康経営セミナーの開始など多くのインパクトを残しました。

このように我々の運動で社会を変えていくことができる経験をしている北区委員会は、今後も事業の北区としての伝統を守り多くの新社会システムを構築していきます。

## Design Our 北区委員会

過去の北区委員会は絶大な地域愛を持ちながらも運動のインパクト効果を最大限発揮するため、東京青年会議所での要職・出向先での要職に多くのメンバーが就いていました。現在の北区委員会では、伝統である地域愛を持ち北区発展のために全力を注ぐことのできるメンバーは数多くいるものの地区の枠を越えて活動するメンバーは多くありません。

我々の目的は地域だけの発展ではなく社会全体をよりよいものとするため、北区からの優れた新社会システムを東京、日本、世界へ広めていくために多くのメンバーに地域の枠を越えた活躍の場を与えなければなりません。活躍の場を広げることにより他の地域で行われている運動を北区に活用できる選択肢も増えてきます。

そのためにはまず我々の運動に賛同するメンバーを拡大し、北区委員会で基礎を学び活躍の場を広げていく流れを構築していかなければなりません。少子高齢化や日本経済の閉塞感により東京青年会議所の会員が爆発的に増加することは考えにくく、メンバー一人ひとりの質をあげていかなければなりません。その試みの第0年として2024年の北区委員会スローガンである「承継と継承」の意は過去の先輩諸兄姉の想いや歴史を理解し、現代に則した手法へとブラッシュアップし未来50年に通用するロールモデルを構築しています。このロールモデルがあることで年齢の若い方や、経験がない方が入会した際にも委員会運営・運動構築・JCとしての理念や理想を迅速に理解してもらえるようになります。そこで基礎知識を得たメンバーに多くの活躍の場を提供することで、北区モデルを拡げていくこと、他の地域からのモデルを北区に還元することができ、このサイクルを円滑にすることで持続可能な北区委員会となり、北区発展の起点として、また将来の地域のリーダーとなる人材を育てることができそうです。

▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら



# 板橋区委員会

2024年度スローガン  
Think big



2024年度登録メンバー数 / 14名  
過去最高登録メンバー数 / 43名(1988年) 第50代委員長 中田雄斗



## 板橋区委員会について

板橋区委員会は、非難や批判ではなく、積極的な賞賛を重んじる文化が根付いています。このため、メンバーは自由にのびのびと活動することができています。かつては、板橋区から理事構成メンバーが6人出ている時期もあり、最も多い時には30名以上のメンバーがいました。現在の委員会も同様に賞賛の文化が引き継がれており、メンバー数は増減を繰り返しながらも、最も少なかった時期の10名を下回ることはなく、少しずつ増えてきています。

本年度は、板橋区委員会のメンバーの中に本会のスタッフを務めている人も多く、誇りに思える前向きなメンバーが多くいることに感謝しています。板橋区委員会で大切にしていることは、他者の意見を承認し、尊重することです。相手の意見を否定することなく受け入れる文化が作られており、意見を言い合うこともありますが、決して人を憎むことはありません。委員会の中では和やかな雰囲気が保たれ、意見が出しやすい状況が作られています。先輩たちとの話の中でも、励まみや叱咤激励を受けることが多く、ますます成長するための協力をいただいていることに本当に感謝しています。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

教育現場で尽力する教師たちに感謝の意を伝えるために、「先生ありがとう」という事業をつくりました。この活動は、教師の重要性を再認識し、教師という職業に誇りを持つよう支援することを目的としています。

教師は、生徒たちと向き合い、子どもたちの未来を築く重要な役割を担っています。しかし、近年の調査では、日本の教師たちは長時間労働や多岐にわたる事務作業、放課後の課外活動の指導など、厳しい労働環境に直面しています。この現状を鑑みて、板橋区委員会は10月5日を「教師の日」とし、日本中の教師たちにスポットライトを当て、感謝の気持ちを伝える日と



しました。「教師の日」には、子どもたちや大人たちが普段お世話になっている教師に感謝の意を示すイベントが行われます。これにより、教師たちは自分の職業に対する誇りを再確認し、「また明日からも頑張ろう!」という気持ちを持てるようになります。板橋区委員会は、この活動を通じて教師たちの労働環境の改善と彼らへの感謝の気持ちを広め、地域全体で教師たちをサポートすることを目指しています。

## Design Our 板橋区委員会

板橋区では、「絵本のまち」というブランディングを進めています。将来的には、青年会議所がこの「絵本のまち」を「教育のまち」へと昇華させることを目指しています。そのためのロードマップは以下の通りです。

100周年を迎える頃には、「絵本のまち」を「教育のまち」へと昇華させ、全国から注目される教育先進地域として確立します。絵本を通じた教育の基盤を広げ、子どもたちの未来を支える環境を作り上げます。

55周年に向けては、地域を牽引するリーダーを育成します。夢を持ち、一歩ずつ着実に進む人材を育てることで、地域の活性化を図ります。リーダーシップ研修やワークショップを通じて、次世代のリーダーが育つ環境を整備します。また、青年会議所のメンバーが「入って良かった」と感じられる環境を作ります。メンバーが自身の成長を実感し、地域社会に貢献する喜びを感じられるよう、内部のサポート体制を強化します。研修や交流イベントでメンバー同士の絆を深めます。

60周年に向けては、関係団体との連携を強化します。地元の教育機関、NPO、企業などと協力し、共通の目標に向かって連携するネットワークを構築します。教育プロジェクトの資源を共有し、地域全体で教育の向上を図ります。

これらのステップを踏むことで、板橋区は「絵本のまち」から「教育のまち」へと進化し、地域全体が一体となって成長することを目指します。

▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 中央区委員会

2024年度スローガン  
**遮二無二、挑む！**



2024年度登録メンバー数／42名  
過去最高登録メンバー数／277名(1988年) 第50代委員長 鳥井大吾



## 中央区委員会について

かつての中央区委員会の会議は、非常に緊張感に包まれていました。議論の場では、各メンバーが真剣な意見を交わし合い、熱い議論を重ねながら運動を築き上げていました。しかし、あまりにも厳格な議論が続くと、メンバーが参加しづらくなってしまったため、「明るく楽しい委員会」を目指す歴代委員長もいました。しかし「明るく楽しく」と言っても、会議では依然として真剣な議論が交わされ、懇親会では和気あいあいと楽しく過ごし、さらに二次会、三次会では一層楽しく飲み語り合っていました。中には、懇親会を楽しみに会議に参加するメンバーもいたほどです。

2024年の今でも、「緊張と緩和」の伝統は受け継がれています。委員会では、真摯で緊張感のある議論が行われ、懇親会では楽しく、時には杯を交わしながらも真剣な意見交換が繰り広げられます。委員会のメンバー同士は、互いにフラットな関係を築いており、入会歴に関係なく、誰の意見も大切にし、運動を共に作り上げています。

今の委員会で大切にしているのは、「遮二無二、挑む！」というスローガンに象徴されるように、挑戦する心です。各メンバーが未経験のことや困難な課題に対しても、JC活動を通じて果敢に挑戦することが、自己成長や地域貢献につながると信じています。中央区委員会には、そんな挑戦したくなる雰囲気があり、共に頑張りたくなる仲間が揃っています。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

過去の中央区委員会では、「地域コミュニティの形成」をテーマに様々な事業を展開してきました。約30年前、開発が進む中央区において、「わがまち中央区こんなまち」事業を行いました。この事業では、小学生を対象に区内の「残しておきたい場所」や「新しくしたい場所」の写真を募集し、コンテストを実施した後、中央区に対して提言を行いました。また、20年前



には「自然とふれあおう！わんぱくKIDS」という、子どもたちをキャンプに連れて行く事業を実施しました。当時の中央区はビルが多く、公園が少ないため、子どもたちが自然と触れ合う機会が限られていました。そこで、子どもたちをキャンプに連れて行き、自然の中で様々なアクティビティを体験してもらうという事業を行いました。この事業はNPOに移管され、現在も毎年定員を大幅に上回る応募があります。

さらに、10年前には「もらい湯キャンプ」事業を実施しました。当時の中央区では新しいマンションが建設され、新しい住民が増えていた一方で、古くから住む住民との交流が少ないという背景がありました。そこで、子どもたちが地域の家庭を訪問してお風呂を借り、家事を手伝ったり、一緒に食事をしたりして、交流を深める事業を行いました。このように、それぞれの時代背景に合わせて課題を発見し、解決するための事業を展開してきました。

## Design Our 中央区委員会

これまで中央区委員会は、地域のために行政と手を取り合い、より良い地域社会を目指して活動を続けてまいりました。私は常に利他の心を持ち、地域貢献のため活動する組織であり続けたいと思っています。

東京青年会議所の理念である「明るい豊かな社会の実現」を、地域に根ざした形で実現していくことこそ、中央区委員会の存在意義です。時代が進み、世の中が便利になっても、社会課題が消えることはないと考えます。便利さと引き換えに、新たな課題が次々と生まれてくるのです。その課題を解決し続けることができる組織であり続けるならば、地域から必要とされ、そして未来に向けて100年続く組織になることができるでしょう。先輩たちの熱い想いを現役の私たちが受け継ぎ、そして私たちの想いを後輩たちに引き継いでいける、そんな委員会を目指しています。

▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 港区委員会

2024年度スローガン  
**ONE 港**



2024年度登録メンバー数／55名  
過去最高登録メンバー数／278名(1988年) 第50代委員長 大石庸平



## 港区委員会について

一昔前の港区委員会は**港村**と呼ばれるほど、東京本会とは距離を保ち独自に地区の課題や地域連携を図っていました。本会に人を輩出しない、地区事業をやらない、例会にも全然メンバーを動員しない等、あげればキリがないですがそのような委員会でした。

それが悪かったかと言うと、そうでもなく港区委員会の雰囲気や一体感は今と変わらないか、より強いものだったと記憶しています。

それは自分達の街の課題に集中するということが叶っていたこと、それを自地区だけで賄えるメンバー数が背景にあったのだと思います。

現在の港区委員会は20名以上のスタッフを本会に出し、例会や各種大会へも積極的に参加するようになってきたと思います。年々減少する東京青年会議所メンバーの中で、やはり**最大委員会である我々が東京を引っ張っていく**。そのような雰囲気になりつつあります。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

わんぱく相撲はやはりメンバーの思い出が強いのかと思います。体育館でやられる地区が多い中、港区委員会では2016年より**アークヒルズカヤラン広場**をお借りしてわんぱく相撲をとり行っております。

港区らしいという表現が適切かは分かりませんが、普段借りることが難しい華やかな場所で、ただ相撲を行うだけではなく、大会を盛り上げるために毎年様々な催しを開催します。

例をあげますと、少年チアリーディングチームによる演目、バイオリンやチェロの演奏、書道家によるパフォーマンス等、毎年実行委員会が考えた様々なパフォーマンスによってわんぱく相撲港区大会のアイデンティティは形成されています。

港区は23区の中でも在住人口が少なく他地区に比べて参加児



童は多くないですが、このような取り組みにより、港区大会としての**プライド**を持ってメンバーが臨んでいる事業です。

## Design Our 港区委員会

今後の東京青年会議所は港区委員会が引っ張っていく雰囲気だと言いましたが、これは「引っ張りたい」ではなく「**引っ張っていくべき**」だとも考えています。

メンバー数が全体比で10%を超える港区委員会は今年のように、多くメンバーを港区外での活動に輩出していき、それぞれが学んだ事を地区にフィードバックすることで、より精度の高い、地区の課題解決を行える集団になっていきたいです。

今年のスローガン「**ONE港**」に込めさせていただいた思いはまさにそれで、人数が多いからこそ、メンバーの英知を結集し地区に還元出来れば、地域から必要と思われる団体で居続けることが出来ます。

また、そのようにしてブラッシュアップされた地区事業や課題解決手法を今度は港区委員会から東京へと発信していく。そのような組織になり名実ともに東京青年会議所を**引っ張っていく**ことを望んでいます。

▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 江東区委員会

2024年度スローガン

江東は家族



2024年度登録メンバー数／8名  
過去最高登録メンバー数／47名(1988年) 第50代委員長 高橋一八



## 江東区委員会について

江東区委員会は「江東は家族」をスローガンに、特に以下の3つを大切にしています。

- ①配慮は大切に、一方で遠慮はせず、利他の心をもって付き合うこと
- ②江東メンバー内で意見交換を十分行うことにより一体感をもって活動すること
- ③パートナーやお子さんといったメンバーの家族も含めて、みんなで楽しむこと

東京青年会議所に入会すると、社業・本業では機会のなかった経験や新たな繋がりを得られます。

江東区役所をはじめとする行政や、教育委員会・各学校の先生方、江東区議・都議・衆参議員などの政治家、各地域を支える町会や睦、富岡八幡宮をはじめとする神社、江東区に籍を置く企業など、江東区で活躍する様々な方々の新たな人的ネットワーク。各種選挙における際の公開討論会や、わんぱく相撲江東区大会、教育や経済など江東区における課題を考えその解決のために活動する地区事業、これらの企画や運営を通じて得られる経験。

これらの新たな繋がりと経験を通じてさらなる人間の成長を可能にすることができます。人間の成長とは心が豊かになることであり、その土台として「江東は家族」が大切であると考えています。この考え方は今も昔も変わらない江東区委員会の特徴です。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

江東区では1994年以降、主に教育分野について社会に貢献してきました。

今では世の中の当たり前になっていますが、当時の新しい取り組みとして特に革新的だったものを以下にていくつか紹介させていただきます。

### ①江東子ども議会 (1994,1995年)

小学生を対象に江東区議会の議場をお借りし、議会を知って

もらい、児童の意見を発信する場として子ども議会を開催しました。この取り組みは新聞にも取り上げられ、その後他地区へ展開されていきました。

### ②江東社会実習 (1996-2000年)

中学2年生を対象に、今では当たり前となっている職場体験を「江東社会実習」として教育委員会のサポートのもとで実施しました。初年度は中学校1校との連携でスタートしましたが、5年後の2000年には区内の10の中学校と連携した事業へと発展し、江戸川区をはじめとした他地区へ展開されました。開始当初は生徒をメンバーの車で現場に送り迎えするなど手作り感の大きな企画でしたが、最終的には区内各中学校の先生方へノウハウや協力企業様のリストを含めたマニュアルをお渡しし価値のある事業として移管しました。

### ③江東寺子屋 (2001-2003年)

中学2年生を対象に、各中学校にて出前授業を実施しました。1グループ5～10名の少人数で双方向にてコミュニケーションの取れる形式とし、声優・研究者・落語家・TBSのアナウンサーなど幅広いジャンルの講師にご協力いただき、新聞やテレビにも取り上げられました。特に経済同友会が大きく協力して下さい、メリルリンチの社長や資生堂の副社長なども講師としてご参加されました。また江東区の豊洲に籍を置くNTTデータや日本ユニシスのご協力も賜り大きなムーブメントを作り、その後品川区をはじめとした他地区へ展開されました。

## Design Our 江東区委員会

江東区には大きく分けて3つのエリアがあります。深川エリア・城東エリアには江戸時代から続く伝統や下町人情があり、湾岸エリアには様々な高層ビルなど新しい時代の都市の未来があります。都心にありながら豊かな水と緑に囲まれた水彩都市である江東区は子どもの人数も増えており、子どもの数は23区内で4番目に多い区でもあります。

東京青年会議所の地区委員会の一つである江東区委員会は、江東区のことをよく知り、江東区の方々との繋がりを広く・強固に持ち、産業界・学校・官公庁、民間といった多くのステークホルダーの皆さまから、今以上に認知され、頼られる存在を目指しています。

様々な人間の個性が大切にされダイバーシティの大切さの認知が今後より広まっていく社会であるからこそ、どのような社会を目指したいか、どのような江東区にしていきたいか、我々一人ひとりがどのように思い描くか、デザインしていくかが重要です。

40歳で卒業になってしまう青年会議所だからこそ、そんな大きなテーマについて侃々諤々議論できるそんな場を、志を同じくする仲間を、これまでも同じくこれからも提供できる江東区委員会であり続けたいと考えています。



▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら



# 世田谷区委員会

2024年度スローガン

守破離  
歴史を紐解き 次世代を創る  
～持続可能な地域社会のために～



2024年度登録メンバー数／48名  
過去最高登録メンバー数／119名(1988年) 第50代委員長 島崎 亮



## 世田谷区委員会について

世田谷区委員会は、地区委員会が設置されてから、諸先輩の皆様のおかげもあり、しっかりとした委員会運営を行いつつ、地域の関係団体の皆様と信頼関係を築き上げてきました。

この50年続いて来た、しっかりとした委員会運営は今とんでも脈々と引き継がれ、今の時代に合わせて委員会のDX化も積極的に取り組んでおります。

また各関係団体の皆様との協力関係も、私たちが現在関わっている世田谷区内で行われる各種イベントや名称使用事業につながる物が多くあり、先輩諸兄姉が築いてくださった地域の皆様との関係が世田谷区委員会に残る最大のレガシーとなっております。

今の世田谷区委員会は、今まで諸先輩が築き上げてくださった、このレガシーを大切にしていけると共に、在籍するメンバーの特性に合わせて、柔軟な委員会運営と次の50年を見据えた、持続可能な委員会にしていくことが出来るよう、真面目なことはしっかりと真面目にやり、楽しむときは徹底的に楽しむことを大切に、メンバーが委員会に所属する価値を自ら見出し、能動的に委員会に関わっていただけるように工夫しております。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

世田谷区委員会で過去に行ってきた地区事業で代表的なものは、2013年～2017年にかけて5か年計画で実施された、夢をかなえる力となります。

夢をかなえる力は、様々な理由で親で暮らすことが出来ない子ども達が暮らしている、児童養護施設に焦点をあて、施設の子もたちが視野を広げ、将来の夢を持てる事を目的としてスタートしました。

私たちが世田谷区内で続けてきたこの運動に世田谷区の方にもご賛同いただき、2016年より、世田谷区若者支援担当課が中



心となって、18歳で児童養護施設等を出る若者たちと一般家庭で育つ若者たちの格差を縮めるフェアスタート事業が始まりました。

このような支援の枠組みを行政が行うのは日本で初めての試みとなり、私たちが始めた運動が行政の皆様、地域の皆様の協力を得て、社会の新しい支援の仕組みとして生み出されることとなりました。

2016年のフェアスタート事業開始時には、給付型奨学金と家賃支援から始まり、その後、資格等取得支援、住宅支援、居場所・地域交流支援、相談支援の4つも加わり、現在では6つの分野からなる総合的な支援が行なえる仕組みとなる事業となりました。

## Design Our 世田谷区委員会

世田谷区委員会では今後55周年に向けて、委員会を引っ張っていくリーダーに積極的な立候補が出てくるような委員会を目指し、中長期的に、次世代のリーダー候補を育成していく仕組みを構築していきたいと考えております。

そのためには、委員会メンバーの拡大と拡充を積極的に行い、委員長やスタッフ、実行委員長などの役職を担うことでメンバー自身が享受することが出来るメリットを明確化していく必要があると考えます。

そのような拡大や拡充を続けていくことで60周年を迎える頃には、今いる50年代を支えた世代のメンバーが卒業しても、残っていく現役メンバーが自分たちの団体に誇りを持ち、メンバーが自分たちで世田谷区委員会や地域社会のことを能動的に考え、委員会や地域社会に関わっていくような人財であふれる委員会となってほしいと考えております。

そのような運動を続けていくことで、地域社会を支えていく人財を地域に輩出し、100周年を迎える際には、地域団体へより大きな影響を与えることが出来る団体を目指します。



▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら



# 荒川区委員会

2024年度スローガン  
伝統と革新



2024年度登録メンバー数/10名  
過去最高登録メンバー数/34名(1988年) 第50代委員長 細谷 誠



## 荒川区委員会について

荒川区委員会は、今も昔もメンバー数が少なく小さな委員会ですが、そのような中でも歴代の先輩方は、東京青年会議所、ひいては日本青年会議所の中で、影響力のある役職を担い活躍されてきました。この数年間においては、東京青年会議所の理事長を3名輩出、日本青年会議所では関東地区協議会の会長を2名輩出してきました。本年、50周年を迎える荒川区委員会ですが、今私たちが地区委員会、東京青年会議所、日本青年会議所で活動できているのは、歴代の先輩方が運動、事業にご尽力してくださった歴史のおかげです。歴代の先輩方の想いを受け継ぎ、私たち荒川区委員会は小さな委員会ながらも、その中でどのような活動ができるか、どのような社会変革を実現できるか、自身がJC活動を通じて成長できるか、一人ひとりが考えながら活動しています。ただ、荒川区委員会のメンバーは真面目に、真剣に活動しているだけではありません。楽しむ時はとことん楽しむメンバーが多く、下町の人情味溢れるコミュニケーションも荒川区委員会ならではの特徴だと思います。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

荒川区委員会の代表的な事業はいくつかありますが、これまでの歴史に振り返ると、その1つには「わんぱく相撲荒川区大会」があげられます。1975年に23区特別委員会が実施され、荒川区委員会が発足した2年後に、第1回わんぱく相撲荒川区大会が開催されました。現在のわんぱく相撲荒川区大会は、区のスポーツセンター（屋内）で実施しておりますが、当時は神社で開催されてきました。相撲は神事と言われていますが、まさに地域で体現した事業だったと思います。大会のカタチは年々変化していますが、子どもたちの心身の鍛錬を目的とした荒川区のわんぱく相撲への想いは、今日に至るまで受け継がれていると思います。近年に関しては、新型コロナウイルス感染症が拡大した2020年に、人流がストップし大きな打撃を受けた飲食店

を対象とした、区内テイクアウト推進事業の実施やこの4年間では教育をテーマに、課題創造型人材の輩出を目的とした、子どもたちへの教育事業を実施してきました。教育委員会との連携はもちろんのこと、区内にある私立名門校の先生方と共創した授業の実施や宇宙をテーマに授業の開催、地域の企業や個人の方々による講演会の実施等、荒川区委員会の事業では、メンバーのみならず、行政、地域の方々とも協力して創り続けてきました。これからも、その文化を大切にしていきたいです。

## Design Our 荒川区委員会

荒川区委員会がこの先55周年、60周年、100周年と歴史を重ねていく中で、常に地域から必要とされ愛される、そして、荒川区委員会で活動することで、メンバーが人間力を高め、成長し続けられる地区委員会にしていきたいです。  
荒川区委員会の発足から50年、過去と現在では大きく社会は変化していますが、歴代の先輩方が各時代背景を捉えた活動をされてきたように、不確実性が高い現在の社会においても、答えのない課題を自ら発見・定義し、メンバーの力を結集して解決していく組織でありたいです。青年会議所の活動のいいところは、一人で行えることは少なく、多くの仲間を巻き込みながら、運動・事業を構築していくことです。個性溢れるメンバーが互いに意見を交わし合い、一つの目標に向かって全力投球することで、社会が変わり、メンバーが成長すると思っています。人生一度きり、どの年代においても、仲間想いであり、現役・OBOGの垣根を越えた絆があって、そして、事業・運動に全力投球できる荒川区委員会でありたいです。



# 文京区委員会

2024年度スローガン  
繋ぎ、進化する。



2024年度登録メンバー数/11名  
過去最高登録メンバー数/65名(1988年) 第50代委員長 宮野 佑実子



## 文京区委員会について

委員会設立当時は、50~60人のメンバーが在籍していました。当時は会務系委員会が中心であったので、メンバーも会務系委員会で活躍し、地区委員会に戻ってくるというスタイルでした。文京区を衣食住の地としているメンバーが多く、50~60人という大人数でもまとまりのある委員会でした。  
また、東京商工会議所文京支部と同時に発足したことから、同団体と合同で文京区民センターにて発会式を行いました。他にも同団体と共同で行う事業が多くありました。  
現在の文京区委員会のメンバー数は、11人となっています。文京区に在住・在勤しているメンバーもいれば、他地区に在住・在勤して、JC活動のために文京区へ通っているメンバーもいます。少数精鋭という言葉がぴったりで、全員がそれぞれの役割を担い活躍しており、チームワークがとても良い委員会です。  
また、文京区内の他団体との交流や協働を大切にしており、文京区委員会の事業にも協力していただくことで、メンバー数の少なさがカバーできています。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

まず、発会当初の1975年から3年間行った事業として、「文京区内4署合同交通安全パレード」があります。子どもが巻き込まれる悲惨な死亡事故が区内で発生したことを受け実施しました。パレードは区内4つの警察署と協働で盛大に行われ、交通安全意識の向上に寄与しました。  
2つ目に、文教地区である文京区委員会らしい事業として、「東京寺子屋in文京」があります。区内の中小企業や士業をはじめとした経済人が、区内中学校に出向き、中学生に対して出前授業を行うというものです。これは2009年に地区事業として開始した後、区内中学校に移管し、現在も名称使用事業として受け継がれています。



最後に、近年の代表的な事業として、2022年から始まった「文京思い出横丁 in 傳通院」があります。人との繋がりや地域コミュニティが希薄化している現代において、「お祭りを創る」という共通の経験を通じて新しい地域コミュニティを創り、その地域コミュニティによって他のあらゆる地域課題を解決していこうという試みです。名称使用事業となり本年で3回目の開催になりますが、年々参加者が増加しており地域住民からの認知度も上がっています。

## Design Our 文京区委員会

これまでの50年がそうであったように、これから先の55周年、60周年、100周年も、文京区委員会は年々少しずつ生まれ変わりながら、OBOGに見守られ、成長し続けていくと思います。その中で大切にしていきたいことは、その時代時代の社会情勢を敏感にキャッチし、出遅れることなく、また出しゃばりすぎることなく、真に地域社会に必要とされる活動を展開していくことです。東京青年会議所文京区委員会も、文京区という地域を形成するコミュニティの一つです。同じように文京区をよりよくしようとしている地域団体や住民の皆さんに学び、その時々到我々にできる最善を尽くしていくことで、50年先に素晴らしい100周年が待っていると思います。文京区を愛し、文京区の良さを内外に伝え、さらにより文京区を創ることができる団体をこれからも目指すとともに、その活動のための協働や会員拡大にも力を尽くしていきます。また、メンバーにとっては、文京区委員会が自己研鑽の場であるとともに、職場でも家庭でもない、第3の居場所となるような委員会運営を目指していきます。



# 墨田区委員会

2024年度スローガン  
次なる50年にむけた  
墨田区委員会



2024年度登録メンバー数/15名  
過去最高登録メンバー数/約69名(1988年) 第50代委員長 藤崎剛暉



## 墨田区委員会について

昔の墨田区委員会は**武闘派**と言われており、その呼び名の通り、先輩たちはとても厳しいです。しかし、厳しさの中に温かい優しさがあり、先輩たちからいただくアドバイスは、みなさまの経験に基づいた確かで熱いお言葉ばかりです。先輩たちが真剣にJCをやってきたことが伝わります。墨田区委員会はメンバー数が多いときは60名を超えており、委員長は拝命するにあたりとてもハードルが高い役職でした。スタッフ数も限られていたので、本会の会務系、政策系に力を入れていた先輩も多く、また出向で活躍されている先輩も多くいらっしゃいます。

現在の墨田区委員会は、メンバー数が昔に比べると少なく、温厚なメンバーが多いのが特徴です。しかしコミット率は高く、本会でスタッフを受けているメンバーや、日本JCに出向しているメンバーもいます。墨田区にも本会にも日本にもコミットし、活躍しているメンバーがいることを誇りに思います。

墨田区委員会で大切にしていることはオンオフをはっきり付けることです。やるときは真剣に、ときにはメンバー同士でぶつかりながらとことんやります。委員会運営に関しても、きちっと設えて伝統を大切に守っています。

オフのときは、オフを全力で楽しむお酒好きなメンバーが多いです。この文化は今も昔も変わらず、先輩たちもお酒の場で楽しくご一緒させていただいております。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

墨田区委員会の代表的な地区事業は、なんとと言っても**わんぱく相撲**です。1976年、第2代委員長の篠田晃先輩のときに始まりました。当時、相撲の大会は全国各地で開催されていましたが、わんぱく相撲を始めたのは墨田区委員会です。ほとんどの相撲部屋が墨田区内にあり、先輩方は相撲部屋との関係性が高い方が多く、そのご縁もあり地区事業として始まりました。わんぱく相撲が始まり、全国に広がった際には日本JCから墨田

区委員会へ相撲部屋とのオファーがあり、アテンドしました。新型コロナウイルス感染症が蔓延する前は、700名近いわんぱく力士が出場してくれました。新型コロナウイルス感染を乗り越えた今では、2021年大会150名、2022年大会250名、2023年大会350名、2024年大会440名と徐々に活気を取り戻しており、毎年わんぱく相撲をさらにブラッシュアップし、墨田区委員会のわんぱく相撲大会の意義を広く知らしめて欲しいです。

## Design Our 墨田区委員会

今年50周年を迎え、これから先、55年、60年、100年と墨田区委員会は続いていくと思います。創立から50年、様々な時代背景のもと、考え方や物事のあり方などが変化していく世界情勢の中で、時には厳しい状況を迎えながらも継続してきました。これからの50年も**かわらない墨田区委員会**であって欲しいと思います。その時代、その時代のニーズに答えがなくなってしまうと思いますが、**武闘派でオンオフ**がしっかりとしている委員会であること、また、委員会のメンバー同士が本物の仲間であることも引き継がれて欲しいと思います。青年会議所の活動は、一人で行えることはなく、仲間がいるからこそできる運動です。議案にもあるように、一つの目標に向かって全力投球するからこそ、時には感情をむき出しにして喧嘩するくらい、メンバーも真剣に向き合い、委員会を盛り上げていってくださることを祈っています。






▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 中野区委員会

2024年度スローガン  
みんなの笑顔に  
エンジン全開



2024年度登録メンバー数/12名  
過去最高登録メンバー数/150名(1988年) 第50代委員長 市川信太郎



## 中野区委員会について

中野区委員会は、OBである先輩方が日本、東京それぞれ出向されている方が非常に多かったこともあり、JC活動を深く理解し、現役メンバーからの相談に親身に耳を傾けてくださる先輩が非常に多く活動のしやすい委員会であります。先輩方は現役当時から現在に至るまでメンバー同士の仲が良いことも特徴の一つで、その特徴が現役メンバーと現中野区委員会にも色濃く引き継いでおります。現役メンバーの人数が12名と他の委員会に比較すれば少ないかもしれませんが、委員会・事業・スタッフ会という委員会としての活動には、基本全員が参加して、全員で課題を乗り越えようとするチームワーク溢れる委員会であると自負しております。そんな中野区委員会で大事にしていることは2つありまして、1つ目はメンバー同士が顔を合わせる機会をJC活動に限定せず、それぞれメンバーの個人的な催しや地域活動にも有志で集まり参加し、共に活動する時間をしっかりと確保すること、2つ目は会議時間を事前準備をしっかりと行うことにより極力短縮に努め、JC活動が苦にならないようにすることで先述のように参加人数を確保していくことであります。そして、かつて50年の歴史ある中野区委員会の諸先輩方がそうであるようにメンバーみんなの絆がJCを卒業しても途切れずに「死ぬまで仲間」そんな想いをみんなで共有できる委員会にしていきたいと思います。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

中野区委員会の代表的な地区事業の一つに、2020年に新型コロナウイルス感染症が蔓延していた中で開催された中野駅前大盆踊り大会があります。当時、不要不急の外出が制限され、中野区に限らずさまざまな地域で予定されていたイベントが次々と中止を余儀なくされていました。そんな中で、中野区委員会は東京都が示すガイドラインに基づき、厳格な感染対策と規制を徹底しながら、この大会を敢行しました。この決断は、コロ

ナ禍における大規模イベントの実施において他の団体にとってのロールモデルとなりました。中野区委員会の取り組みは他の団体にも模範として受け入れられ、同様の感染対策を施した上でイベントが再開される流れを作り出しました。このように、中野区委員会の果敢な行動は、社会全体において自粛や中止が常態化していた状況に一石を投じることになりました。この中野駅前大盆踊り大会は、単なる地域行事の復活にとどまらず、コミュニティの絆を再確認する機会にもなりました。地域住民が一堂に会し、感染対策を徹底しながらも楽しく安全に過ごせる場を提供することで、人々の心に希望と連帯感をもたらしました。また、この成功体験は、今後のイベント運営においても貴重な教訓となり、新たな感染症対策の指針を示すものとなりました。これからも中野区委員会は、地域のニーズに応えながら、新たなチャレンジを続けてまいります。

## Design Our 中野区委員会

今年50周年を迎えさせていただきました中野区委員会ですが、今後55周年、60周年、100周年と未来に向けてさらなる発展をするためには、どれだけ地域から必要とされる組織になれるかが重要であると考えます。地域のあらゆる方々と地域の諸課題に対して共に取り組み、JCとして独りよがりの事業ではなく、催行する事業が地域の諸課題の解決に役立っているのかをしっかりと見つけることができる人材を輩出し、地域社会にさらなる貢献をもたらすことができる組織になるように、そしてJCを卒業しても地域から必要とされ、活躍ができる人材が溢れる委員会になることを心から祈っております。また、そんな素晴らしい人材が先輩方や今の現役メンバーのようにいつまでも付き合える仲間と出会える組織として発展してもらいたいと考えます。






▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら

# 豊島区委員会

2024年度スローガン  
繋がりをつなぐ  
ALL TOSHIMA



2024年度登録メンバー数 / 14名  
過去最高登録メンバー数 / 78名(1979年) 第49代委員長 板橋 匠



## 豊島区委員会について

昔の豊島区委員会は、移りゆく時代の中で、地域社会のために何が出来るのかを考え、同じ目的に向かう同志と共に納得がいくまで議論し、それらをすぐに行動に移していたと伺っております。

所属会員が約60名近く居た時代もあれば、十数年前は1-2名の会員数の時代もあったと聞きます。会員数が減少する中でも、決して諦めることなく、少数でも地域社会の問題に向き合い、運動をし続けた結果、現在の豊島区委員会があると思います。

先輩諸兄姉が築き上げてこられた「街を想う心」は、半世紀経つ今も我々の行動指針となり、時に進む道に迷った時は、誰のために？何のために？運動しているのかを思い返し、前を向く原動力に変えています。

どんな時でも優しく手を差し伸べて下さる先輩諸兄姉、地域の皆様、今我々が運動出来るのは決して当たり前ではなく、先輩諸兄姉が築き上げて下さった礎を誇りに思い、先輩方に感謝の想いで溢れています。

「WE LOVE♡TOSHIMA」、これは実行委員会の名称で、豊島区内の関係団体に多く知れ渡った名称と聞いております。現在も、この名称を使用させていただくことは多く、愛着あるこの名を今でも大切にしています。敬意を表し、この時代に必要とされる委員会になるため、日々精進しております。

「意志」と「伝統」を受け継ぐ現役メンバーと共に、ここから5年10年と「WE LOVE♡TOSHIMA」の魂を継承し、地域社会に愛され必要とされる委員会を創っていきます。

## 社会にインパクトを与えた代表的な運動

豊島区委員会は、わんぱく相撲はもちろん、国際交流が盛んな委員会です。わんぱく相撲は、過去に池袋の代表するデパート「西武」の屋



上で実施したことがあるそうです。

会務系委員会で活躍されていた先輩方が、地区委員会が発足した後、認知とインパクトを残すために開催したと聞いております。また、会場でのちゃんこ鍋の提供も文化の一つです。

国際交流ですが、毎年9月に実施されている豊島区の代表的なお祭りである「ふくろ祭り」、伝統ある多くの神輿が連ねますが、その中で歴代委員長が実行委員長を務めます「国際交流みこし」というものがあります。

今年で29回目を迎え、外国人の方と日本人と一緒に神輿を担ぎ、伝統文化に触れる機会を提供しています。コロナ禍で開催が出来なかった時は、池袋にある七福神巡りを行い、豊島の街を歩き交流した事も記憶に新しいです。

国際の政策委員会で活躍されていた先輩方も多く、そこで得た経験知識を街に還元し、現在も地域活性に繋がっています。

## Design Our 豊島区委員会

今年で49周年を迎える豊島区委員会ですが、地区の数えでは50周年と聞きます。半世紀を跨ぐ組織は、非常に少ないと思います。未来は自分たちで創るものであり、その時代にあったニーズに応じていく必要があると思います。

青年会議所は一人で行える運動は少なく、仲間と共創することで、自分にはない違った視点で物事を考え、成長することが出来ると考えます。先輩諸兄姉が築き上げてきた伝統を重んじ、変わらない意志を持ち、時代に合わせて変革を遂げる行動こそ、継続できる組織に昇華されると思います。

仲間と存分に議論し、納得のいくまで自分達なりの答えを探し、正解のない旅だと思います。続けることは何でも難しく、くじけそうなこともあると思いますが、目的を見失わず、仲間と共創すれば道は続きます。それこそが、社会を変えるきっかけになり、明るい豊かな社会の実現に繋がり、地区委員会の発展に繋がると思います。



▲ 歴代委員長対談  
▲ 対談フル動画はこちら



# 第72回全国大会東京大会

公益社団法人日本青年会議所 2023年度

## 全国大会誘致と実行委員長拝命の背景

**高木** 本日はご協力いただきまして、誠にありがとうございます。2023年度は共に副理事長として歩んでまいりました、本年度理事長を務めている高木隆太と申します。どうぞよろしくお願いいたします。2020年度、私たちは全国大会東京大会の誘致活動を始めましたが、この誘致に対する背景について、具体的にどのような調整があったのか、また実行委員長を引き受けた際の背景を教えてください。

**大人** 2020年は感染症が拡大し、社会が大きく変わる激動の年でした。全国大会の開催地決定は通常とは異なり、立候補がなく東京が急遽選ばれました。その際、理事長の伊澤先輩が調整を行い、私は2020年の9月に立候補の話を受けました。私は当時、2020年、37歳の年でしたので、2023年が卒業だったわけです。当時、私は理事長になりたいと思っていて、2021年の役職を日本の議長・委員長をやりたいと立候補させていただいていました。

議長や委員長への可能性が消滅した時期に、理事長への道もなくなったように感じていました。その時に突然全国大会の実行委員長の話があり、受けて良いか家族に確認したところ、「何を言ってもやるでしょ!」と言われ、実行委員長として大会の誘致が決まりました。

**高木** 全国大会は僕らがこの3年間で作り上げてきたと思いますが、通常であればどれくらいかかるものなののでしょうか？

**大人** もともと全国大会というのは、誘致をするにあたり複数の立候補があります。そして、「どこかのLOMに投票で決定する」というのが前提です。今は1LOMしか立候補がないという状況が何年か続いているので、1LOMだけの答弁になり、そこが決まっているという状態です。ですが、例えば宇都宮大会では、何度も立候補をして、当選を落ちて、を繰り返しながら全国大会を誘致したという歴史があります。

準備自体は2~3年かけてシニアと調整しながら進めていきます。ですが、立候補をして、本当に誘致が決定するまでを考えると、5~6年から7~8年かけて行うというところもあります。立候補のルールというのは、3年連続で立候補することはできませんが、3年連続して当選しなかった場合、その後3年間は立候補ができない。というものもあります。

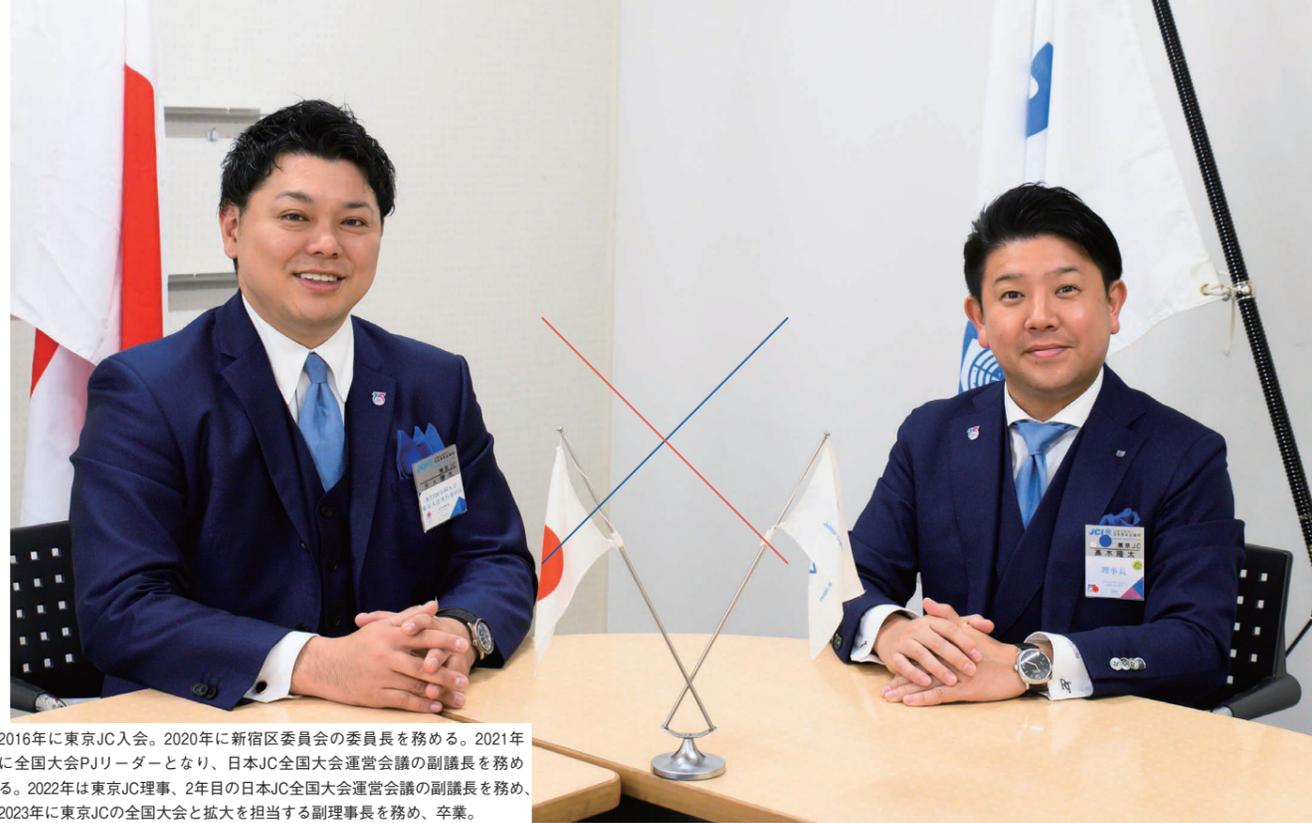
本来であればそんなに簡単に誘致できるようなものではないし、準備をせずにできるものではないということ、特にシニアの皆さんは理解されているのではないのでしょうか。

**高木** 全国大会誘致までは長い道のりだということが伺えます。新型コロナの状況下で、どこのLOMの立候補もなく、そこに我々東京が入れたということは奇跡的なめぐり合わせがあったと言えると思います。

**大人** 誘致書類が約100ページもあることを知った際、渡邊学先輩と私がパワーポイントを得意としているという情報が漏れ

てしまいました。そこで、何かを感じた誰かから2年分か3年分の書類を預かり、2週間後までに誘致書類を完成させるように依頼されました。私たちは「その書類を作成する際のアイデアを自分たちで考えてほしい」と伝えられ、正直、少々丸投げ感がありました。

## 大人 慶太先輩



KEITA OHITO

2016年に東京JC入会。2020年に新宿区委員会の委員長を務める。2021年に全国大会PJリーダーとなり、日本JC全国大会運営会議の副議長を務める。2022年は東京JC理事、2年目の日本JC全国大会運営会議の副議長を務め、2023年に東京JCの全国大会と拡大を担当する副理事長を務め、卒業。

**高木** あるあるですね。笑

**大人** 準備期間が少なく、全国大会に向かう人もいない状態で、「全国大会って何？」という状態でした。しかし、全国大会実行委員長の拝命を受けた時点で、「とにかくやる!」という決意で取り組みました。

東京青年会議所の理事と  
日本青年会議所VCを兼任されたことについて

**高木** 全国大会実行委員長を拝命されると、日本JCの全国大会運営会議の第1小委員会の筆頭VCを経験する必要があります。

そして「第2小委員会」のVCを経験して実行委員長を迎えるというルールがあります。

大人さんは2021年に「第2小委員会」のVCを経験してから2022年度に「第1小委員会」の筆頭VCを経験されました。

日本青年会議所に実際に出席された経験や、今だから言える裏話などのお話がありましたら、お聞かせいただければと思います。

**大人** そうですね、全国大会を主催するLOMが通常は大会に向きますが、同じ人が2回VCを担当する必要はありません。また、前年度に第1小委員会のVCを担当するのは決まっていますが、第2小委員会のVCは特に決まっています。

**高木** 第3でも第4でも良いということでしょうか？

**大人** 大丈夫です。結果的に2年連続でVCを務めることになり

## 高木隆太君

第75代理事長  
RYUTA TAKAGI

## 準備期間で苦勞されたことについて

**高木** 準備期間中の出向の間、日本JCとの繋がりがどのように役立ったかについて詳しく教えていただけますでしょうか。

**大人** 全国大会の準備期間中には、多くの人々との出会いがありました。これは、それぞれのLOMの全国大会を作る過程で協力が増えることから、非常に魅力的で刺激的な経験でした。また、全国大会の出向先は議案の量や厳しさも相まって、協力が必要でしたが、その過程は非常に興味深かったです。しかし、この苦勞を経験することで学ぶことが多く、その知識は全国大会以外ではあまり使えない狭い範囲のものでしたが、そのような経験を持って帰ることは責任でもありました。特に東京での開催では、責任の重さやプレッシャーを感じることもありましたが、それでも弱音を吐くことはできず、責任を果たすことが求められた部分では苦勞しました。

**高木** VCを2回務めた後、実行委員会の立ち上げまでの1年半の準備期間がありました。この期間には、メンバーの機運を高めたり、全員の参加を確保する苦勞があると思いますがいかがでしょうか？

**大人** 実行委員会を率先して進める際、他のメンバーを巻き込む方法について悩みました。結果、集まる機会を大切にし、実行委員会を月2回開催する形で設営しました。WEBでの開催もありましたが、各メンバーの都合を考慮しながら実施しました。総務の人にも手伝ってもらいながら、役割を明確にし、工夫を凝らしてみんなを巻き込みました。結果として、各地区委員長や理事が積極的に参加し、スムーズに進行しました。会議は多かったですが、理解が深まり参加者が増えていく過程で、まさにJCの「運動」が生まれました。文句もあつたかもしれませんが、多くの人が参加してくれて、本当に素晴らしい経験ができたと思います。

**高木** 実行委員会の戦略的な進め方や、地域チームの決定など、経験豊富なメンバーの提案があり、早い段階で方針が決まりました。これにより、不平不満が生まれることなく、責任感を持って行動できたのではないかと思います。

## 全国大会を終えて感じたこと

**高木** 全国大会の準備期間中、準備委員会では、助成金や会場の問題などを扱っていましたが、今振り返ってみて、具体的に、「何かできた、何かをやってあげれば良かった」ということはありますか？

**大人** やはり一番重要な問題は予算と会場です。予算と会場について、全国大会の前の「全国大会準備委員会」の中で、東京の方針と日本の方針をすり合わせする場をしっかりと作った方が良かったかなと思っています。

**高木** 会場も日本JCの主催ですから、独自で判断できませんからね。

**大人** 最終的には会場は有明GYM-EXになりましたが、結果的には来場してくれた人数と会場のキャパがほぼ同じぐらいだったので、逆にすごく良かったのかなと思います。

ですが、やはりその会場設営や予算について、その前年度に日本の委員会、そして、主管するLOMがしっかりと話し合っただけで、またちょっと違ったのかなというのは思いました。

**高木** 今戻れるとしたら、国立競技場でやりたいですか。

**大人** 結果的には有明GYM-EXでよかったと思います。大分の大会も、宇都宮の大会もスタジアムでしたが、席が余ってしまって、ちょっと一体感に欠けているところもありましたし、広すぎて見えないというようなこともありましたから。今回は、来場者数がちょうど良かったのでそのように思います。

**高木** キャラバンでは全国各地を巡る中で、楽しく盛り上げることに徹していました。責任者として、大きな声で参加者を引き込み、福井事務局長と共に、キャラバンを成功させるために努力されました。僕は体調不良で全てのキャラバンには行けなかったのですが、そのキャラバンから開催までと日本青年会議所との調整の部分を少し教えていただければと思います。

**大人** 2023年度は、日本の理事会に毎回参加し、議案について意見を求められる役割を果たしていました。最初はスケジュールが詰まっていた大変だと感じましたが、結果的に日本の役員に顔を覚えてもらい、私の存在を認識してもらう機会になりました。23地区委員会ごとにキャラバンに行く場所をくじ引きで決め、委員長とメンバーが参加して地域を楽しみながらキャラ



バンを設営しました。この活動を通じて、大会の開催に対する参加者の意欲が高まり、地区委員会のメンバーが手伝ってくれるなど、良い形で準備が進んだと思います。

**高木** 実行委員会に来るのは委員長たちがほとんどで、キャラバンで全国大会をPRしましたが、そのPRが地区委員会スタッフやメンバーにも周知するきっかけとなりましたね。当時を思い返すと、日本青年会議所の要望も踏まえながら、僕らが何をやっていくのかということも表さなければいけないし、強く要望されることもあります。何か全国各地を放浪されたように東京側の方として感じました。

**大人** その辺は、当時、外口歴代理事長が常任出向されていて、下山田理事長（当時）が日本JCの理事会に何年か出ていたフェーズがあったので、他のLOMが全国大会を主管するように、調整や相談が容易にできたことが大きかったように思います。私自身も知らないところで、全国大会について裏でいろいろと調整をしてくださった人がたくさんいます。特にシニアの方とか、いろいろと作るために体を動かしてやってはいたけれども、

その周りで調整して支えてくれる人がいたから、大会を開催するまでにまとまったのかなと強く感じます。

**高木** 最後のクロージングセレモニーで大人さんの忘れられない大きな涙がありました。全国大会を終ってしまうのだという気持ちと達成感。実行委員長にしか感じられない涙があったのかなと思います。あのステージをもう一度振り返っていただいて、どんな思いでしたか？

**大人** 本当に感謝ですよ。もう感謝しかないです。その感謝をいろんな人に伝えたい気持ちだけでした。一番そばで支えてくれた福井理事に感謝を伝えたいと思い、ステージに立ったその時に僕が号泣しながら話している時に、後ろでスントすましている福井理事が写っている写真が一番思い出に残っています。笑

記念事業の使命があったと思いますが、あの場で感謝を伝えつつ、みんなと一緒にできたという達成感は、どこでも味わえないものなのだろうと、強く感じました。

**高木** JCは本当に素晴らしい機会を提供してくれますね！全国大会を終えて感じたことは、全ての活動には意味があるということです。例えば、キャラバンに実際に行かなくてもWEBで情報共有できると思う人もいますが、JCはリアルな交流の重要性を体現しています。委員会もオンラインで行えるかもしれませんが、リアルな集まりで時間を共にし、意見を交わし、準備をすることが大切です。激務を終えて振り返ると、無駄なことは一つなかったと感じます。リアルな経験を通じて、みんな一つになることの大切さを改めて感じました。

**大人** 全国大会の場合は準備や設営をする際、新たな事業を創出するのではなく、決まった事柄を工夫することが主な作業です。記念事業は違って、その事業に対する目的や資金集めの方法を考えるのは大変ですが、これがJCの醍醐味だと思います。全責任者として大会の準備をする立場でしたが、自分が主役だとは思っていませんでした。東京青年会議所として、記念事業を開催し、全国の人々にその魅力やスケールの大きさを感じてもらい、日本全国に影響を与えることができたことに誇りを感じます。

**高木** 僕も出向の経験があるので、記念事業の会場で色々な方々と喋りましたが、その時に「自分たちの地域で参考にさせてもらいます」という意見をたくさんいただきました。

**大人** 本当に私が実行委員長という立場で理事会とかいろいろ出席しているから、目立つようなポジションにいますけど、実態としては高木さんが記念事業の担当をやっていて、担当理事の若林さんと一緒に作られていました。「発信」という部分で、もうちょっとまとめた方が良かったのかなというのは反省点としてあります。

**高木** 逆にもっと関わりたかったなって感じでしたか。

**大人** いえ、僕自身が関わるというよりは、この運動自体が、例えば、若林さんが作ったやり方というのをフォーマット化して全国ができるようにするなどの態勢も、つくれたらよかったかなと思います。

### 全国大会が東京青年会議所に与えた影響について

**高木** 東京青年会議所、そして日本青年会議所に与えてきた影響についてということが効果としてあったと思っていますか。

**大人** 全国大会は日本青年会議所の運動を総括し、次年度へ継

承する場です。単年度制はJCのあり方を明確に区切る重要なポイントであり、毎年違う場所で行うことで、メンバーが集まり、再会するだけでなく、その地域を楽しみ、様々な目的や結果を生み出します。LOMこそが立候補すべきであり、その街のリーダーが集まり、街の魅力をどう感じてもらうか、どれだけ多くの人を呼び込める街にするか、その過程が重要だと考えます。全国大会は地域のリーダーを育てる場であり、LOMは地域の魅力を再発見し、発信する場でもあります。JCメンバーに対する影響は強く、社会への波及効果も期待できると思います。

**高木** JCメンバー、僕らも地域を発展させるために根差して運動を展開している団体です。これは僕ら東京JCだけでなく、この1万名ほど集まる全国大会を起点に街をどうしていくかって示していくと、全国大会は考え次第で楽しくなっていく。楽だからいいというものではなくて、やはりみんなで切磋琢磨して、一つの大会を作り上げていくことの過程にこそ僕らの財産があるのかなと思う次第でございます。

**大人** 5年後の2028年に、「東京の全国大会振り返り」という形で集まるパーティーがあります。全国大会を行って、街がどう変化したのか、どういう影響があったのかというのを、振り返る機会がありますから、その時に答え合わせができるのではないかと考えています。

### 全国大会で継承すべきこと

**高木** 今年のスローガンは「Design Our Tokyo～未来のための継承」です。継承すべき価値やメッセージを大切に、未来の世代へのメッセージを込めて、昨年の大会を紡いでいきたいと思っています。今後の「全国大会に対する継承」というテーマに沿ったメッセージをいただけると嬉しいです。

**大人** こういうことを言うのはあまり好きではないので、言わないようにしているのですが、東京青年会議所は創始のLOMだと言われていて、日本の中にある671の会員会議所の全ての親のLOMに当たるわけです。

この誇りというのは、現役は絶対に持っていなければいけないと思います。もちろんそれが偉いとか、そういうことではありません。この活動を起点として始めたLOMであるからこそ、誇り高い運動をしていかなければいけません。会議の質やレベル、そして時代に即したJCのあり方を定義することが重要です。東京青年会議所だからこそ、日本を引っ張っていくという強い意志を持って活動することが重要だと思います。

**高木** そういう志を持ちながら活動していくべき、ということですね。

**大人** 今回の全国大会は、日本全体が疲弊した中で、我々創始のLOMが責任を持って挑みました。これから先何かが起こった場合でも、東京青年会議所が責任を持つ覚悟で、現役メンバーが頑張りたいと思います。

**高木** 次年度理事長として歴代理事長会議に参加した際、小林元治先輩がステージで話されて、「創始のLOMとは何なのか、責任と誇りである」という同じキーワードを言われていました。この「誇り」という言葉が共通のキーワードだったな、と今聞いて感じたところです。僕らの運動の糧となるというか、その志を持って活動することが大切なんだというのをすごく感じました。東京青年会議所だから得られる経験に誇りをしっかり持って実施していきます。

### 現役メンバーへのエール

**高木** 最後に。現役メンバーに対してお言葉をいただけますか。

**大人** 私はもともと理事長になりたいと思っていて、それを口に出して、いろいろな機会をいただきましたが、結果的に理事長にはなれなかったということがありました。私はバカになり、いろいろな発言をして行動していくことは大切だと思います。斜に構えて馬鹿にしたり、運動がどうだと批判をしたり、各々の人生だから各々の選択で、どうとでも言うことはできると思います。でも誰かに馬鹿にされようと、自分が正しいと思う道を一生懸命やっている人にカッコ悪い人なんていないと僕は思っています。青年である今のうちにバカになって、失敗を恐れずに一生懸命いろいろなことにチャレンジしてもらいたいなと思っています。

**高木** バカになって、挑戦と行動をし続けてほしいということですね！



**大人** 伝えたいのは本当に感謝です。関わった人は伊澤さん、外口さん、山本さん、歴代理事長、そしてシニアの皆さんです。歴代理事長やシニアも大会に向けて様々な準備や調整をしていたことが分かりました。現役だけでなく、周りの支えや先輩から受け継いだものを大事にしながら活動していることを伝えたいです。

**高木** 相澤先輩から全国大会の振り返りで、涙ながらに「ありがとう」という言葉をいただきました。現役が主導しなければ良い大会はできませんでした。麻生歴代会頭などからも感謝の言葉をいただきました。普段はあまり褒める方ではありませんが、この機会に出会えたことに感謝し、「皆さん、誇りを持ってください」という言葉をいただきました。現役だけでなく、先輩と共に乗り越えてきた素晴らしい機会だったと感じています。

**大人** 全ての関わってくれたメンバーに心から感謝しています。  
**高木/大人** ありがとうございました。

# 全国大会東京大会レポート

## Bridge over the dreams

主催である日本JCの【運動の総括の場である全国大会に託す想い】と、  
主管青年会議所である東京JCの【全国大会によってもたらす街の未来に対する想い】。  
主催と主管双方の想いを掛け合わせ、2023年度の運動の成果を次年度に継承し、  
継続して行動していく覚悟を示す機会とすることで、2024年度以降に夢をつなげる懸け  
橋としました。日本のJC運動がスタートした東京の地にて行われた全国大会。  
『創始者たち』が描いた夢をさらに超えていくという意味でこのテーマを選定しました。

### DAY1 1日目 | 2023年10月6日



#### 総会

東京ビッグサイト国際会議場にて、日本青年会議所第174回総会を各地会員会議所理事長の皆様のご出席のもと開催しました。冒頭、JCI(国際青年会議所)のカビン・クマール・クマラベル アジア太平洋地域担当常任副会頭よりご挨拶いただきました。第174回総会では2024年度の人事案件と今年1月総会にて承認された青年会議所会館建替計画の修正案を中心に、30件の審議事項が承認されました。また、会頭選挙管理委員会 市川 雄士 委員長より2024年度会頭立候補者の資格認定並びに当選者決定までの経過報告が行われた後、小西 毅 君が2024年度代表理事(会頭予定者)として全会一致で承認となりました。

#### その他プログラムレポート

麻生 将豊 会頭をはじめとする日本青年会議所役員一同、そして、大会の主管を務める下山田 敬介 理事長をはじめとする東京青年会議所メンバー、東京ブロック内の青年会議所理事長が、東京都渋谷区代々木にある明治神宮にて、第72回全国大会成功祈願祭を執り行いました。同宮は大正9年(1920)11月1日、明治天皇と昭憲皇太后をお祀りするために創建された神社です。神楽殿に参集した一行は、本殿での参拝で玉串拝礼ののち、大会の大成功を祈願しました。



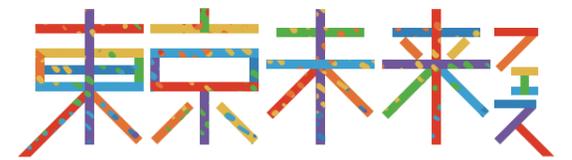
#### オープニングセレモニー

東京ビッグサイト国際会議場にて、第72回全国大会東京大会の開幕を飾るオープニングセレモニーを開催しました。オープニングアクトとして落語家 月亭 方正 氏による自身の経験をもとにした夢に関する漫談と開会宣言が行われ、会場を大いに盛り上げていただきました。続いて、日本青年会議所 麻生 将豊 会頭より挨拶が行われたあと、主管LOMである東京青年会議所 下山田 敬介 理事長より大会3日間のスケジュール、フォーラムや事業の内容が紹介されました。また、日本青年会議所 国際連携会議 吉田 謙佑 議長、誇りある日本人確立会議 永吉 準 議長も登壇し、各フォーラムの見どころのプレゼンテーションを行いました。

### DAY2 1日目 | 2023年10月7日

#### 記念事業「東京未来フェス ～Be Connected～」開幕

東京ビッグサイト南第1ホール・第2ホールにて、10月7日・8日と2日間に渡り、東京青年会議所主催の第72回全国大会東京大会記念事業「東京未来フェス～Be Connected～」が開催されました。このフェスは未来を市民と共に考え、社会課題を解決する次世代の担い手を創ることを目的とし、延べ26,434名の来場者に恵まれました。東京都や特別区長会をはじめ行政や法人86の関係団体の賛同のもと実施され、多くの次世代の担い手に社会課題解決を行うことへの気持ちを高めるイベントとなりました。



#### 未来への懸け橋となる 熱狂と感動の1日目

両日も、小ステージと大ステージに分かれて様々なステージ企画が行われました。小ステージでは沢山の観客で活気あふれる中、力強い和太鼓の演奏で始まり、未来ダンスフェスティバルでは子どもたちの未来と希望あふれる小中高生のダンスチームのダンスによる自己表現で観客を魅了しました。その後、小島よしお氏をはじめとしたゲストによるクリエイティブの世界についてのパネルディスカッション、西野亮廣氏の講演が行われ、次世代の若者に向けたメッセージを発信していただきました。一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団や日本赤十字社の講演、全国骨髄バンク推進連絡協議会のライブパフォーマンスがありました。大ステージでは成長産業である宇宙ビジネスについて日本を代表する経営者たちをお招きして学びの多い時間となりました。

#### その他プログラムレポート

国際フォーラム「Impact The Future」次世代への継承」と、国家フォーラム「日本人の底力」が開催されました。国際フォーラムではアニメ「マクロス」シリーズの総監督である河森 正治 氏を講師にお迎えし、国際グループの運動の成果発信を織り交ぜながら、国際の機会を作り出せるヒントを持ち帰っていただけるよう開催いたしました。国家フォーラムでは自由民主党副総裁で衆議院議員の麻生 太郎 氏をお招きし、日本人のもつ底力についてご講演いただきました。

## 輝く未来の在り方を次世代に 発信したフィナーレの2日目

小ステージにて大使館パビリオンにご参加の大使館や関係団体による各国の魅力や活動内容について発信、また日本青年会議所の青少年育成プロジェクト（グローバルユース国連大使育成事業）より、事業に参加した学生達による発表、東京青年会議所の経済政策・共生政策・国際政策地区室の活動の発信が行われました。そしてメインフォーラムとして活動の紹介及び、テリー伊藤氏、東儀秀樹氏、特別区長会会長吉住健一氏を交えて輝く未来の在り方についてのパネルディスカッション、その道の先駆者を講師にデジタルを駆使した新たな地域コミュニティづくりの可能性について学びました。東京未来フェスのフィナーレとしてnobodyknows+氏と荻野目洋子氏をお招きして、ミュージックイベントを開催し、未来を担う次世代に向けてメッセージをいただきました。



### 大会式典と卒業式

大会式典には、寛仁親王妃信子殿下がお成りになり、東京都知事 小池 百合子 様、特別区長会 会長 吉住健一 様をはじめとするご来賓の皆様、そして、歴代会頭、歴代役員、日本JCシニアクラブ、JCI(国際青年会議所)役員、賛助企業の皆様をご臨席されました。全国各地より集結したJCメンバーを前に、麻生 将豊 会頭が2023年度の運動総括スピーチを行い、歴代会頭によるご介添えのもと、麻生会頭から小西 毅 2024年度会頭予定者へと、プレジデンシャルリースの伝達が行われ、その後、2024年度の方針を力強くスピーチしました。式典の最後には、2024年度に開催予定の第73回全国大会福岡大会を主管する福岡青年会議所へと、72回の歴史を積み重ねてきた「大会の鍵」が伝達されました。卒業式では、全国の総勢4,079名の卒業生を代表して、日本青年会議所 監事 青木 孝太 君より「卒業生の誓いと贈る言葉」が贈られました。その後、シークレットゲストとして倅田来未氏が登場。馴染みある様々な曲を披露し会場は大いに盛り上がりました。最後には、現役メンバーが拍手と歓声で見送る中、卒業生がランウェイを通過して退場し、感動の卒業式が閉会しました。



### 東京未来フェス、アワード受賞！

2024年6月のASPAC(アジア・太平洋地域会議)にて、第72回全国大会東京大会記念事業の東京未来フェスがアワードを受賞しました！ASPAC最優秀組織間協働プロジェクトに、ベストプロジェクトとしてノミネートされました。日本国内では唯一、この東京未来フェスのみアワード受賞となりました。



### その他プログラムレポート

東京未来フェスではステージ以外にも様々なブースが催されました。最先端の技術を用いたVR体験やドローンサッカー体験といった無料体験ブース、国際都市東京の魅力を発信する11の大使館と2つの国際団体によるマルシェ、全国各地の魅力が詰まった物産展の実施、東京全国の美味しいものマルシェとキッチンカー、メタバース会場の開設・運営をしました。



# 未来のための継承



## 現役歴代理事長 NEXT5、80周年に向けて

**高木** 現役理事長対談を始めます。外口歴代から、理事長当選時の使命感や、やりたかったことについてお話しください。

**外口** 1月3日に緊急事態宣言が発出され、東京ドームホテルでの所信ができなかった年でした。その中で運動を止めないことが一番の使命でした。コロナ禍で各地の青年会議所が運動を止める中、私たちは止めずに活動することが重要でした。専務理事にお願いして100万円の予算を捻出し、コロナ禍でもできる運動を考えました。高木くんも賛同してくれ、多くの方が協力してくれました。

**高木** コロナがなかったら、やりたかったことはありますか？

**外口** 仮定の話ですが、やりたいことは大体やらせてもらえたと思います。手法は変わりましたが、アワードを取るが一番の目標でした。アワードを取るためには、人から共感を得る運動を作る必要があり、そのための委員会を設立しました。これがやりたかったことで、達成できたと思います。

**山本** 当選時はコロナ禍で、緊急事態宣言中でした。全国大会を控え、組織力の強化と社会の活性化が使命でした。理事長所信の一番上に「リアルにこだわる」を掲げ、希薄化した人間関係を戻し、活動体制を整えることが目標でした。

**高木** 使命感以外でやりたかったことはありましたか？

**山本** やりたかったができなかったことが一つあります。全国大会に向けて人数のボリュームが求められていましたが、私は組織力強化のために会員数を減らすことを考えていました。メンバーの経験不足が見られる中で、原点に戻って組織力を高めたかったのです。

**高木** 人数が多いだけでなく、プロフェッショナルなチームが重要ということですね。

それでは、昨年度理事長を務められていた、下山田歴代お願いいたします。

**下山田** 私が理事長になったときの使命感は、2023年の全国大会を成功させることでした。持続可能な大会を作り上げるために、全国のメンバーと協力し、LOMの団結を図ることが重要だと感じました。また、組織が大会だけでなく運動も行うことで、両輪を回すことを目指しました。さらに、大会を通じて東京青年会議所のレガシーを築き、参加したメンバーが成功体験を得ることを願いました。そして、メンバーの減少に対処するため、若い人が組織で活躍できる環境を整えることも重要だと考えていました。

### 東京青年会議所の存在

——歴史と伝統がある東京青年会議所、やはり創始のLOMというところで、出向目線からも読み取れる強み、弱みがあると思います。もちろんトップをやられた3人だからこそ見られる強み弱みがありますし、また東京青年会議所だからこそ抱えている課題だったり、課題解決方法など、創始のLOMである私たちが、他にはない、唯一の地区委員会制度を持っているLOMとい

うところで組織体制を見ると、日本青年会議所地区協議会と似ていたりするのかなど、感じております。

下山田歴代、JCIの常任副会頭として、東京青年会議所の強み、弱み、課題、そして未来の展望についてお聞かせください。理事長を経験して、また世界にいるからこそ見える視点でお話しいただければと思います。

**下山田** 東京青年会議所は、世界から見ても一目置かれる存在というのは間違いのないですね。日本青年会議所は、JCIでは



「Leading National Organization」という位置づけでありますので、その首都LOMである東京青年会議所は特別視される場所もあり皆さんの憧れの存在でもあります。

この間、ヨーロッパの新入会員向けのGMみたいなものがあり、それに講師として出てきました。そこでも東京青年会議所のわんぱく相撲が一つの代表的な事業として紹介されていました。青少年育成という観点も含めてですが、東京青年会議所が独自にモンゴルやウクライナからJCのネットワークを駆使してこのような大会を東京だけでなく、いろいろなところに展開している素晴らしい手法だということで紹介されていました。

世界でも一目置かれる存在ではありますが、東京メンバーがもっと外に出ることで、さらに存在感が増すと思います。東京の地の利を生かして他地域と触れ合うことで、LOMとしても成長できるんじゃないのかなと思います。

**高木** 東京青年会議所が抱えている課題についていかがでしょうか。

**下山田** 東京青年会議所は600名弱のメンバーと多くのOBを擁し、内部で十分な活動ができる自己完結型のLOMです。

実際にこの組織にいても、600人近い方、OBを入れれば1,000人、2,000人と知り合えるわけです。東京青年会議所だけ所属していても十分な恩恵を受けられます。しかし、この環境に満足し、一步踏み出して外部と関わろうとしない風潮があります。東京の地の利を活かし、他地域や国際的な活動にも積極的に参加することが重要です。東京青年会議所の素晴らしさゆえに自己完結に甘んじてしまうのが課題ではないでしょうか。

**高木** どうしたら良くなるかという点は、東京の地の利を活か

第72代理事長  
外口 真大

第73代理事長  
山本 健太

第75代理事長  
高木 隆太

第74代理事長  
下山田 敬介

して全国や世界との交流を増やすことなんですね。東京は会議や出張がしやすい環境にあるので、一步踏み出して外の世界を見ることで自己成長に繋がるということですね。

**下山田** うまくまとめていただきありがとうございます。笑

**高木** 続きまして山本歴代お願いいたします。

**山本** 私が考える東京青年会議所の強みは、地区委員会制度により毎年23人のリーダーが育成されることです。メンバー育成と他団体との連携強化を目的に地区委員会が設置され、これにより政策を持ち、課題解決に取り組む体制を整えました。弱みとしては、設立趣意書にある「新日本の再建」に対する視

点が不足していることです。地区委員会制度により、メンバーが地域の視点に留まりがちです。全国大会を控えた2022年は、社会の定義を23区から日本全体に広げる行動を起こして、この東京青年会議所としてあるべき姿を目指す年だったと思います。

**高木** ちょうど山本歴代の時代に「全国繋がりプロジェクト」で僕らの運動を波及させるため、全国大会を起点にスタートしたというのを、今お話を聞かせていただいていた次第でございます。山本歴代の時代に「全国繋がりプロジェクト」が全国大会を起点にして僕らの運動を広げるために始まりました。本当に全国各地と繋がりましたし、今の段階で希薄になっているところもありますけども、2024年度10月例会でのブース出店で繋がりをつくっていかうかなと考えております。もう1点なんですが、関東地区から見た東京青年会議所の存在というところの点をお伺いできますか？

**山本** 関東地区協議会は、日本青年会議所に含まれる組織です。その日本青年会議所を作っているのは東京青年会議所であると考えていて、やはり日本青年会議所をつくったLOMとして、手本になることが、東京青年会議所の役割なんだと思います。

**高木** この関東地区のいろいろなメンバーからの、東京青年会議所についてや、今、会長職を務められていて、東京JCの一人だなと感じる部分やそれ以外に感じたことが何かあれば教えてください。

**山本** そうですね。下山田理事長がおっしゃったように、LOMの中で完結ができるLOMであるという特徴があって、関東地区協議会の役割というのはLOMの支援になりますが、正直言って東京青年会議所はその支援対象ではなく、逆にその支援する対象のLOMに対してやはりこうあるべき姿というのを見せていく、LOMの役割というのがあるのではと思います。

**外口** 日本青年会議所には500人を超えるLOMは3LOMしかいません。したがって、日本の他の地域の青年会議所に東京青年会議所の活動を落とし込むのは容易ではありません。現在の状況は、20人以下または50人以下のLOMが6割から7割を占めているという統計です。

このような状況から、東京青年会議所が起こす運動と、他のLOMが起こす運動は規模が異なりますが、それでも両者が適合できる可能性があります。他のLOMでも実現可能な方法で示すこと、それを東京青年会議所がリードすべきことだと考えます。

アワードを受賞した際には喜びますが、それが他の地域での運動にも広がってほしいですね。

**高木** 他のLOMの方々から聞くと、300人規模の例会は年に1回か2回程度だそうです。この点から気づくことは、東京青年会議所は特別な環境で活動しているということを理解することが重要です。創始のLOMとして、この経験を広めていく責任があります。設立趣意書にあるように、新日本の再建は青年の仕事であり、東京だけでなく、全国のLOMの指標や道標になるよう、我々の運動を示していく必要があります。

### 今後予測される社会情勢と 中長期ビジョンについて

——続きまして、歴代理事長の皆様考える、今後予測される社会情勢とその課題です。

中長期ビジョンが2020年に策定されて、2021年からスタートして、2025年に改定が迫っている中で、その改定に向けて中長期ビジョンの必要性、改定に向けての何か助言があればお願いし

ます。

**下山田** 現在、世界各地で紛争が続いており、ウクライナやロシア、イスラエルとパレスチナ、そして台湾でも緊張が高まっています。同時に、アメリカやフランスなどでも国内の分断化が進んでいます。このような状況の中で、私たち責任世代が社会をより良い方向に導くことは非常に困難です。JC運動が平和を築く手助けをすることは難しいでしょう。

ただ、僕らができることというのは、国の中にあります。国境の違いがあっても、その多様性の中でいかに良い社会をつくっていくことが求められています。僕は昔からやっていることだけれども、民間外交という考え方を、日本だけではなく、他の国の人たちも同じ気持ちを持って、国際的な事業を起こしていく必要があるのではと思います。

東京青年会議所が今後取り組むべきことは、海外姉妹LOMとの連携や国際事業の展開などです。しかし、これらの規模の運動を継続するには、メンバーの育成が不可欠です。東京青年会議所が国際社会でリーディングの役割を果たすためには、メンバーがより多くのトレーニングを受ける必要があります。国際的な事業への参加を通じて、メンバーが経験や知識、スキルを身につけることが重要です。

**高木** 世界的な情勢を踏まえたとご意見をありがとうございました。

もう1点、中長期ビジョンの件について、必要性や改定に向けてどうあるべきなのかというところをお聞かせいただければと思っています。

**下山田** 中長期ビジョンは運動の指針となり、明確な方向性を示しています。しかし、時には内向きな傾向があり、パートナー団体との協力や地区の課題に対処するには足かせになることもあります。ビジョンの策定やルールづくりによって、ミスマッチを解消する必要があると思っています。



**高木** 山本歴代の時代から、組織が持つべき中長期ビジョンの重要性が語られてきました。そして、国連が掲げるSDGsが組織の目指す先となるならば、我々もそのビジョンを持つことが社会的評価に繋がると考えられます。

**高木** 続きまして、外口歴代 お願いします。

**外口** 社会情勢の予測は難しいです。人口の増減による課題は時代によって変わります。しかし、原点を守れば方向性は見えます。家族、会社、地域を良くすることが原点です。そのためにはルールを守る必要があります。中長期ビジョンはルールの一部であり、最速で目標に向かうために重要だと考えます。

**高木** 設立趣意書の原点に戻ると、社会を構成しているのは会

社や地域や家族ということ。家族の重要性を強調し、ここに力を入れていきたいと考えます。

——今、回答が2つ出ましたが、山本歴代はいかがでしょうか？

**山本** 社会情勢として、日本の主な課題は人口減少だと考えます。地方創生は東京青年会議所の焦点ではなく、関東地区協議会では人口減少と東京1極集中の解消を目指します。地方都市の人口減少に対処し、関係人口を増やす取り組みが必要です。日本の人口減少に対し、日本JCや東京青年会議所は数によるプレゼンスの獲得から脱却し、新たな方向に進む準備が必要だと思っています。

**高木** 質の議論が重要であり、数だけではなく質に注目すべきだと考えます。100年後の人口推移を大きく変えるのは難しいですが、関係人口を増やすことが重要です。首都に限らず、地方との関係を深めることが必要だと感じますが、いかがでしょうか？



**山本** 東京青年会議所は地方創生を考慮する必要はなく、より進んだ都市であるニューヨークやロンドンを参考にすべきだということですね。

**高木** 中長期ビジョンの策定中で、コロナ禍の中での取り組みとなっています。5年間のビジョン設定は長すぎると感じ、2年から3年ごとに改定する方が適切だと考えます。変化が大きければ柔軟に修正すべきだとも思いますが、いかがでしょうか？

**外口** 中長期ビジョンの策定にはリソースと時間が必要で、5年サイクルで適切だと思います。ビジョンは壁ではなく、超えるべきものであり、歴史と伝統を尊重しつつも、それを超えることが重要だと思います。

**下山田** 今年からようやく中長期ビジョンを検証していますよね。検証を毎年行うことで、5年サイクルでも問題はないと考えています。検証が行われていないことが聖域化を招いている面もある。検証を経てビジョンを修正することも可能であり、そのために5年サイクルでも適切だと思います。

**山本** 私も、青年会議所の活動目的は社会開発を通じた指導力開発であり、政策立案や社会課題の解決は行政の役割と考えます。青年会議所は未来の課題に責任を持つ中心世代であり、未来を見据えた役割が求められます。そのため、中長期ビジョンの期間を10年ではなく5年とするのが適切だと考えています。

**外口** 新しい時代においても、過去の歴史を無視して全てを変えることは違うと思います。メンバーには魅力的な未来を提案する声が必要ですが、リーダーとしてはそうではないということをお願いしたいですね。

**高木** 今のメッセージを次年度のチームにも伝えていきたいと考えています。

## 地区委員会について

**高木** 東京青年会議所の地区委員会の必要性について、今後も維持すべきかについてお聞きします。

**山本** 地区委員会の設置理由が明確でないと、役割が定まらず混乱を招くと思います。社会課題解決やメンバー育成のために設置される目的を前提として必要かと思っています。



**外口** 運動を広げる際には、ボトムアップとトップダウンの両面からアプローチする必要があると思います。東京青年会議所の活動を東京全体に拡大する場合、地区委員会が個別に活動を広げるのが効果的です。地域の課題を吸い上げるためにも地区委員会の存在は重要であり、人材育成にも役立ちます。しかし、時代に合わせて制度を見直す必要もあると思います。

**下山田** 地区委員会の重要性を再認識した瞬間は、行政との関係性が前提となる事業を実施する際に訪れました。東京都との交渉においても、東京ブロック協議会がカウンターパートとして必要であることが明確になりました。自身が足立区委員会の委員長を務めた際には、運動による変化を目の当たりにし、リーダー育成において重要な役割を果たすポジションであることを実感しました。組織の変更や人数に合わせた対応も検討すべきですが、各区とのカウンターパートとしての役割を考えると、23地区の存在は必要であると感じています。

## 【80周年に向けて】

——それでは最後に、東京青年会議所は今年で75周年を迎えますが、80周年に向けて、現役メンバー、記念誌を手取るメンバーたちに伝えたいこと、そしてリーダーからの激励と継承していくべきことについてお話をいただきたいです。

**山本** 指導力開発は重要だと思います。多様性や心理的安全性も大切ですが、苦勞することで成長する考え方も大事です。だから、変えてはいけない部分と変えるべき部分を見極める必要があります。指導力開発に関しては、受け継ぐべきだと考えます。

**高木** 新しいことに挑戦するときや組織の流れに従うとき、苦勞することもあります。しかし、その経験が今の自分を形作っています。過去の厳しい経験が、今の自分を支える基盤になっています。今の役割を果たす中で、過去の経験が役立っている

と感じます。

**外口** 伝統や共通の価値観は組織を形作る重要な要素であり、多様性は時に危険なものと思っています。我々一つの理念のもとに組織され、その理念を達成するために集まっています。価値観が多様化すると組織性が失われ、目標の達成が難しくなります。時代に合わせて手法を変えることも大切ですが、理念を軸に据えることが重要です。困難な状況でも使命感を持ち、楽しむことで成長できると考えます。

**下山田** JCI (Junior Chamber International) は、青年会議所の国際組織であり、青年リーダーの育成に取り組んでいます。青年会議所は国際的な組織であり、国際社会での存在感も強いです。青年たちは国際的な活動にも参加し、世界観を広げる機会があります。日本のパスポートは世界で最も強力なものの一つであり、どこへでも行くことができます。自身の地域に留まらず、世界へ一歩踏み出して経験を積むことが重要だと思います。東京青年会議所の過去の国際活動を振り返ると、南ベトナムへの医療使節団派遣やソ連との民間外交など、その歴史は印象的です。これらの活動は、我々が国際的なリーダーシップを発揮してきた証です。この伝統を受け継ぎ、新たな活動を展開することで、私たちならではの貢献ができると信じています。

**外口** 「JCしかない時代から、JCもある時代になった」という言葉は間違っていると考えています。JCは他の団体とは異なり、国際組織としての強みを持っています。

能登震災の際には、JCが迅速に行動しましたが、他の団体は動きが鈍かったです。なぜなら、JCの理念は地域の改善に焦点を当てており、そのための行動が自然と起こるからです。そのため、JCは他にはない団体であり、そのことを誇りに思うべきだと考えます。



**高木** 去年、若林さんが「時代がJCに追いついてきた」という名言を挙げました。最近では、SDGsや地域貢献が企業の中で注目されており、JCの取り組みにも追いついてきたと言えます。相澤歴代の話を知ると、JCが国際的に活動している唯一の団体であり、その価値を感じます。国際的な経験をやる機会があれば、多くの人々がその価値を理解し、組織の一員として自覚できるでしょう。

**下山田** 組織の魅力を伝えていきたいですね。

**山本** 日本青年会議所と東京青年会議所の定款3条には、国際機関と連携して世界の繁栄と平和に寄与することが明記されています。これが他の団体にはない最大の違いであり、青年会議所の国際的な取り組みを特徴づける一つと言えますね。

## みんなで考える未来の東京青年会議所～東京JCメンバーの声で紡ぐ未来のビジョン～

### 活躍できる人材を増やす!!!

会員拡大は重要課題かと思いますが、社会をより豊かにするのが目的ですので、会員拡大はその実現のための手段です。1人でも多くの活躍できる人材の育成が大事だと思います。

30代後半/男性/出向・役職経験あり

### 理念が共有できている組織に!!!

多くの諸先輩がこの75年の歴史の中で多くの豊かな社会の実現を目指して活動してこられました。東京青年会議所は長い歴史があり、それを永続的に続けていくためには、会員拡大を続け、後輩にそれを引き継いでいくことが大切だと思います。なぜJCをやるのか、なぜ拡大をしないといけないのか、JCから得られるものはなんなのかなどを知らないで続けているメンバーが多いと思います。若いメンバーにしっかりと理念が共有されるような組織であってほしいです。

30代後半/男性/出向・役職経験あり

### 組織改革!!!

全盛期の会員数から減少しているの、組織や仕組み、地区委員会のあり方を見直す時期に入ってきていますので、より良くなるように検討してほしいです。また各種大会などに「マスト」という言葉ではなく、なぜ参加するのか、参加するとどうなるのかなどをもっと丁寧に説明して、より多くの会員が前向きに楽しんで参加してもらえるようになると思います。

30代後半/男性/役職経験あり

### 実現したい未来へ!!!

会員の拡大、拡充とともに、新たな事業展開の発展に繋がるとともに、新団体や新企業の新しい交流が生まれ、東京JCが実現したい未来へ紡いでいけること。

30代前半/女性/役職経験あり

### 誰でも活躍できる組織に!!!

規律を重んじながらも、拡大していくことが重要だと思います。またお勤めの方でも参加できるような組織体制を作り上げると、もっと東京JCは世の中に普及していくと思います。行っている事業は、社会人にとって必要なことばかりですので、裾野を広げていきたいです。

30代後半/男性

### 拡充を!!!

入会、委員長職に興味をもったキッカケはお世話になっている先輩の影響です。個人で寄付などのボランティア活動を行っていましたが、他に街のために出来ることはないかと考えていたときに巡り合ったのが先輩で、JCを知りました。入会当初、JCで何をしたらいいかわかりませんでした。何が出来るのかを教えてくださいました先輩がい

たことで、自分に何が出来るのか、何をしたいのかが見えてきた気がします。会員数は年々減少していますが、JCでしかない運動、JCだからこそ出来る運動を現役会員が理解しないと拡大には繋がりにくいです。80周年に向け、会員の意識醸成、自分の中の社会貢献とは何かなどの行動に向けての目的を抽出して、共創してみたいと思える組織作りを行うことで、拡大拡充に繋がります。JC運動がより発展していくと考えます。

30代後半/男性/役職経験あり

### ビジネスの手法を!!!

ソーシャルビジネス団体としてさらにビジネスの手法をもちいて地域の課題に取り組んでいける環境作りが大切かと思えます。

30代後半/男性/役職経験あり

### 運動の質を高める!!!

会員数が減少しているの地区委員会の在り方を考える時期です。また議案の書き方などメンバーに対しての教育する機能がないので、設置されると思います。事業の精度は協力団体など外部からの評価に繋がります。事業の検証から継続事業とするか、廃止するかを検討する委員会などを設置し、継続事業を発展させて、然るべき持続性が確立したところで移管するという事をしていけると運動の質が高まると思います。役職にもっとロイヤリティを持たせられるといいと思います。

30代前半/男性/役職経験あり

### 発奮!!!

ブランドとは約束です。創始の理念に基づき、マニラをスポンサーとしてスタートした歴史の背景を踏まえ、JCIの理念と運動を連携し、日本のLOMをリードする責任と使命を継承していくこと。そこから外れない政策と運動に取り組むことが、約束を守ることであり東京JCのブランディングです。発奮!奮え!東京!

30代後半/男性/出向・役職経験あり

### 内外ともに輝く魅力的な組織に!!!

80周年では内外ともに輝く魅力的な組織になって欲しいです。JCに入会したきっかけは同世代との交流が魅力的なこと、ボランティア活動のように社会に貢献できる活動ができること、日本的ながら国際的な組織であることという3つの理由からです。多様性を重んじ、青年経済人としての品格を持ち、お互いを尊敬し合える組織に、一人ひとりの会員がお互いを尊重し、切磋琢磨する組織になっていると嬉しいです。

30代後半/女性/出向・役職経験あり

### コンプライアンス!!!

様々なハラスメントのない、誰もが活躍しやすい環境の組織になっていると思います。先駆けた運動を展開する東京青年会議所は、

今後若い世代を迎えていくにあたり、時代に合った意識改革が必要です。

30代後半/女性/出向・役職経験あり

### リーディングLOMとしての誇り!!!

メンバー属性において経営者または個人事業主が減少してきていることや、男性も育児に携わる時間が増えてきた昨今、一人ひとりがJCに費やす時間や労力は圧倒的に減ってきていると感じます。これから先、拡大運動も当然大事なことです。組織をより強くしていくためにはある程度適材適所でのメンバー配属も必要になってくるかなと思います。場合によっては地区委員会制度を廃止して4地区程度に分散したブロック制度のようなものも必要になってくるかもしれません。何よりもメンバー自身が楽しく活動できる環境をつくるためにも、負担が偏らないような組織編成を考えていっていただきたいです。リーディングLOMとしての誇りと自信をもって、しっかりと歴史を紐解きながら勇気をもって組織改革に臨む姿勢を期待しております。

30代後半/男性/出向・役職経験あり

### ビジョナリー東京青年会議所!!!

社会起業家を育成する唯一の仕組みを持った団体としてブランディングし、東京青年会議所に入ったほうが良いと、対内、対外の方に言っていたら大変革します。「増やすべきこと」「残すべきこと」「減らすべきこと」を青年会議所内と関係する人に聞くことで、青年会議所としてのアイデンティティを明確にし、どう進むべきなのか明確にする会議が必要だと考えます。内部の意見だけでなく、広く考えを聞くことが重要だと思います。誰のために存在している東京青年会議所なのかを確立したいです。

30代後半/男性/出向・役職経験あり

### jayceeとは!!!

社会変革の旗手となるために女性比率、若い世代が増加していること。LOM認証番号001の誇りを持ち、他LOMから憧れられる存在となること。そのために採用と教育システムを見直す必要があります。入会時の動機づけ、GMセミナーで青年会議所の歴史、他団体ではなく、なぜ青年会議所なのかをしっかりと考えてもらうこと。jayceeとは何かを考えてもらうことが必要です。わんぱく相撲に代表される名称使用事業は毎年同じことを行っているのだから新入会員が経験を積むための委員会とすると良いと思います。

30代後半/男性/出向・役職経験あり

### 伝統と時代!!!

良い伝統は残しつつ、時代の流れにそった考えを常にとりいれられるマインドを持ったメンバーを増やしていきたい。

30代前半/男性/役職経験あり

## 編 集 後 記

東京青年会議所が75周年を迎えるにあたり、記念誌を発刊できますことを心より厚く御礼申し上げます。2024年は東京青年会議所75周年、地区委員会50周年を迎える節目の年でもあります。誠にありがとうございます。

約1年前の今頃に記念誌担当の副議長のお話をいただきました。70周年から75周年と、COVID-19の影響もあり、この5年間で時代も生活もJCの在り方や手法もまるで変化しました。その時代の移り変わりを見てきた者として、高木理事長の所信と合わせて、先輩諸兄姉が紡いできた糸を現役メンバーへ繋ぎ、メンバーの皆が東京青年会議所に所属している意味や初心を思い出し、次の80周年への懸け橋となり、創始のLOMとして他LOMの参考書になるような、そんな記念誌にしたいと、制作してまいりました。

本誌の作成にあたり、協力していただきました、理事長をはじめとする役員の皆様、各委員長の皆様、メンバーの皆様、先輩諸兄姉の皆様、事務局の皆様、記念誌制作スタッフの皆様、そして75周年特別会議のスタッフの皆様にご心より感謝を申し上げます。この75周年記念誌には裏テーマに「皆で作る記念誌」というものがありました。誰一人欠けてはこの記念誌は完成することはできませんでした。誠にありがとうございます。また、この5年間では「JCI Mission」「JCI Vision」、そして「JC宣言」が改定されるという大きな変化がありました。

現在のJC宣言「日本の青年会議所は 希望をもたらす変革の起点として 輝く個性が調和する未来を描き 社会の課題を解決することで 持続可能な地域を創ることを誓う」とあるように、メンバーの皆様が自分の個性を輝かせることが重要です。未来の80周年へ向けて、歴史を学び、メンバー一人ひとりがその個性を發揮し、相互に意見を交わし合い、より良い運動を創り発信し、東京から希望と愛が溢れるシナジーを創っていく。本誌がその一部になれていたら幸いです。心からの愛と感謝を込めて。ありがとうございました。

2024年9月3日  
75周年特別会議 副議長  
記念誌担当  
島田綾乃



**JCI** Junior Chamber International Tokyo  
公益社団法人 東京青年会議所

### 創立75周年記念誌

発行日 2024年9月3日発行  
編集者 公益社団法人東京青年会議所 75周年特別会議  
発行者 公益社団法人東京青年会議所  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-1 オームビル新館8階

デザイン・制作・印刷・製本 株式会社440Project  
歴代委員長動画撮影 株式会社DIAWOKE

人と不動産のかけ橋



株式会社リアークスファインド

代表取締役 大人 慶太

〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目7番30号  
小田急西新宿 O-PLACE 6F  
TEL 0120-957-754



RENAISSANCE

地域を健康に

株式会社ルネサンス

〒130-0026  
東京都墨田区両国2-10-14 両国シティコア3階

特殊鋼のエキスパート



東栄特殊鋼材株式会社

〒132-0022 東京都江戸川区大杉3-15-13  
TEL:03-3654-2381 FAX:03-3674-5261

株式会社東京ウォーターウェイズ  
〒130-0015  
東京都墨田区横綱 1-2-13 ヒューリック両国リバーセンター1階  
Tel: 03-6659-2530 Fax: 03-6659-5480  
info@tokyowaterways.com



LUXURY RIVER CRUISE

船上での特別演出



HIROTAグループ

株式会社 環境整備

お店やオフィスの  
「キレイな環境づくり」を  
サポートします。

本社 〒130-0003 東京都墨田区横川3-9-3  
TEL 03-3829-3611 (レンタル 事業部)  
TEL 03-3622-3081 (環境 事業部)  
FAX 03-3829-3887

創業93年の歴史と継承されてきた技術。  
丸市田中建設は建設・建築にまつわる総合企業です。

丸市田中建設

〒120-0036  
東京都足立区千住仲町27-14 クレストコート北千住2F  
TEL.03-3882-4610

印刷会社が栽培した

いのちの  
生きくらげ



東京ビジネス株式会社  
〒130-0022  
東京都墨田区江東橋 5-16-12  
TEL: 03-5600-4641 (代)  
FAX: 03-3846-5140  
URL: https://www.tbp.co.jp/



医療法人社団  
隆靖会

墨田中央病院

公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院

☎03-3617-1414

東京都墨田区京島3-67-1  
FAX.03-3610-7586

診療科目  
外科・内科・整形外科・形成外科・皮膚科・  
脳神経外科・心血管外科・泌尿器科・放  
射線科・消化器外科・循環器内科・麻酔科

診療時間  
【午前】9:00~12:00  
【午後】13:30~17:00  
※休診日:日曜・祝日

虎ノ門第一法律事務所  
TORANOMON DAIICHI LAW OFFICE

弁護士 高橋 弘行

〒100-0013  
東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル10階  
TEL:03-6205-7235 FAX:03-6205-7374



私たちは「技術の勝亦」を旗印として、  
未永くお客様にご愛顧頂ける、  
人に優しく、強い会社を目指します。



受配電・監視・制御の総合配電盤メーカー  
株式会社 勝亦電機製作所

〒140-8702 東京都品川区北品川4丁目10番9号  
TEL:03-3443-1241 FAX:03-3443-1240

高木屋老舗

お茶会、慶事のあつまりに  
老舗の味「上生菓子」はいかがですか？  
贈り物にも最適です。  
柴又老舗の味を是非ご堪能ください。

〒125-0052 東京都葛飾区柴又7-7-4  
TEL:03-3657-3136 FAX:03-3657-3138



お米とごはん  
隅田屋

株式会社隅田屋商店

〒130-0005 東京都墨田区東駒形1-6-1  
TEL.03-3626-1135 MAIL.info-sumidaya@sumidaya.jp  
URL.http://www.sumidaya.jp

一之江セレモニーホール  
ICHINOE CEREMONY HALL

有限会社 瑞江セレモ

〒134-0015 東京都江戸川区西瑞江5丁目1-5  
Tel:03-5674-4444 Fax:03-5674-4442

株式会社 石山

東京都墨田区菊川2丁目13番9号  
TEL 03-3632-8500

WEBシステム開発をお願いしたい...  
閲覧数の多いホームページを作りたい...  
ITに強い人材が欲しい...

あなたの困った  
解決します!

私たちにお任せください

WEBシステム開発/業務系システム開発/  
インフラ設計・構築/ホームページ企画・制作/IT人材派遣

アンブレラ株式会社

〒176-0021  
東京都練馬区貫井1-5-9 ラ・グレース2F



文京登記総合事務所

〒113-0033 東京都文京区本郷2-29-7 大谷ビル2階  
TEL:03-3868-8433 FAX:03-3868-8434

株式会社指田不動産

篠 賢史